
最強による異次元輪廻

クラウド

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

最強による異次元輪廻

【Nコード】

N7736R

【作者名】

クロウド

【あらすじ】

最強がいろんな世界を回りまくる！
会社を経営したり、暴れたり、遊んだり
基本コメディーたまにシリアス！
チートキャラがあばれまくるよ！

主人公設定（前書き）

クラウド「俺の設定だね」

主人公設定

本名：クロウド

BLEACH：鬼神蔵人 きしんクロウド

身長：男、175cm 女、170cm

体重：男、46kg 女、ばらしたら殺るぞ♪

容姿：男、髪が腰まであり銀髪、体は細いが筋力はある、顔の分類としては100%女顔

女、大体は男状態といっしょだが声が高く、胸がFカップ

性格：基本的に冷静だがDSだし外道、やさしい面もあるけど、嫌いな奴には容赦なし

特技：料理、格闘技、剣道、射撃、etc

特徴：頭がよく、4歳でフェルマーの最終定理とジューグラー定理を合わせて1秒で解く

技：アニメの技だろうが、モンスターの召喚だろうが錬金術だろうが何でも出来る・・・

作者はリリカルなのは、ネギま、ファティ？、東方？などは題名くらいしか知らないので出てこないのあしからず

経歴：敵対？する神におとしめられ幽閉・・・そのあと牢をぶち壊し
BLEACHに移動

今は昔よりは少しずさんでいる

オリジナル技

シャドーズ？（テン）（未完成）

自分と同等に近い力をもつ分身を作る（最高10人）
未完成なためまだ疲れる

BLEACH：武器解説

霊仏銃れいぶつじゅう：ザンパクトウの銃verだと思つてね♪

始解、月光げっこう：片方は真つ黒、片方は真つ白になっている銃
能力：物質に月光の弾があたつた瞬間、それに命令できる
ただし1発につき三十秒、しかし殺傷能力あり

卍解、陰陽月光いんようげっこう：一つになり銃身は黒、持手は白になっている
能力：相手の持ち物に当たつたら相手にその分の傷を負わせる

ザンパクトウ

始解、神斬しんざん：柄から握り手は白、刀身は黒の刀

能力：物質にあたつたら原子レベルまで操る事が出来る、
ただしあたつた数×5秒、殺傷能力あり

卍解、魔神斬響：相手の持ち物に当たつたら相手にその分の傷を負
わせる

ムヒヨとロージーと魔法律相談事務所

魔法律執行順

赤い部屋

白い部屋

地獄の家具屋

地獄の家具屋を発動した時に鍊、魔力などが0になると女体化する
ことが発覚した

主人公設定（後書き）

クラウド「増えるたびに更新します」

裏切り者（前書き）

クラウド「どうも！新小説です！」

裏切り者

ここは天空界・・・ここで何をやってるかというと・・・

？「ねえ！鬼ごっこしようよ！」

？「いいよクラウド！」

彼はクラウド・・・髪は銀色・・・ほっそりしてて女っぽく、服は真っ白だ・・・

姿的には4歳くらいだろうか・・・

クラウド「じゃあジャンケンしよう！アテネ！」

彼女はアテネ・・・別名戦いの神、髪は茶色で服は赤だ・・・

姿的には5歳くらいだろう・・・

アテネ「いくよ！ジャンケン！」

クラウド「ホイ！」

アテネはグー・・・クラウドはパーだ・・・

クラウド「アテネおにー！！！」

アテネ「10秒待つよ！」

そしてアテネが数え終わり走り出す・・・

アテネ「待てー！！！」

クラウド「本気で走らないでよー！！！」

そう・・・戦いの神であるアテネは100M5秒という・・・速さをたたき出している・・・

その姿を陰から見てる男がいた・・・

？「負から生まれたものが正の神であるアテネと遊ぶとは・・・

あんなもの・・・ずっと幽閉してしまえばいい・・・」

そうクラウドは負から生まれたもの・・・

そのため色々な神から虐めを受けている・・・

味方はゼウスとアテネくらいだろうか・・・

？「ゼウス様はあんなものをよくほつといている．．．作戦は今日決行しよう．．．」

男はニヤリと笑う

クラウド「今日も楽しかったね！」

アテネ「うん！」

クラウド「じゃあね！」

アテネ「うん！」

日が暮れるまで遊んだ二人は家に帰る・・

クロウド「ただいまー！今日のご飯はな・・・」

クロウドの目の前に広がっていたのは・・お世話になった天使の屍だった・・

クロウド「起きて！どうしたの！？ねえ！おきてよ！」

たが天使は目を覚まさない・・当たり前だ・・もうすでに死んでい
るのだから・・

ここで他の神と天使が来た

クラウド「ねえ！この人を起こしてよ！ねえ！」

天使A「やった張本人が何を言う？」

クラウド「え？」

わけが分からないクラウドはあつけにとられる・・・

天使A「貴様は世話になった天使を2人殺害した」

神A「よって連行する・・・」

天使たちはクラウドを捕まえる・・・

クラウド「僕じゃない！僕じゃない！僕じゃない！いいいいいい！！！！！！」

クラウドの言葉は届かなかった・・

最高神の間

ゼウス「あのクラウドが天使を殺害!？」

神A「はっ！この神の目に写コピっております！」
アテネ「嘘よ！クラウドはそんな事はしない！」
神A「ご存知でしょうか？これはゼウス様でも改竄には1000年はかかる・・・真実です」
ゼウス「そんな・・・」
アテネ「うそよ・・・」
二人は崩れる・・・

～ 幽閉所 ～

ここにクラウドは幽閉されていた・・・
もちろん力は封じられている・・・
クラウド「やってないのに・・・」
鎖で縛られているクラウドは言った・・・
そこにアテネが・・・
クラウド「！アテネ僕はやってない！やってないんだ！」
アテネ「・・・」
アテネは無言で下がる・・・
クラウド「アテネ？」
アテネ「さよなら・・・」
アテネは幽閉所から出て行く・・・
クラウド「僕じゃない！違う！違うんだ！！アテネエエエエエエ！！！！！！！！」
その声はもう届かなかった・・・

～ エデン ～

神A「やったな！」
神B「ああ！全くやつとあの邪魔者がいなくなつた！」
神A「まさか変装とは思わなかつたようだな！」
神たちは口々に話す・・・
神A「やつと天空界がきれいになつたな！」

神B「あいつのせいで空気が汚れていたからな！」
神A、B「ハハハハハハハハ！！！！！」

〽幽閉所〽

幽閉から1年たったころ・

クラウド「どうせ誰も信じてくれない・・・」

幽閉所では飯も飲み物も支給されない・

クラウド「もう・・・いい・・・」

クラウドは力を込めた

バキッ！鎖が外れる

クラウド「俺の居場所はここじゃない・・・」

悲しそうに言う・・・

クラウド「さいなら・・・ゼウス、アテネ・・・」

バサッ！

今まで出したときは真っ白だった羽、服は変わっていた・・・

クラウド「じゃあな・・・」

そう真っ黒に・・・

そうしてクラウドは天空界からいなくなった・・・

裏切り者（後書き）

クラウド「次はブリーチの世界です!」

おい・・・俺のロービー牛乳をどっけてくれる！（前書き）

クラウド「2話目ですー！」

おい・・・俺のコーヒー牛乳をどうしてくれる！

クラウド「うゝんここどこだ？」

いきなり迷ったクラウド

クラウド「とりあえず・・・家を買って、戸籍を作って小学校入るか」と見事に戸席を作って家を買ったクラウド

小学校に入り中学校そして高校に入った！

そう！その高校こそ一護のいる学校！ではなく違う学校であるしかし不良がつかかってくるので1ヶ月で転校した！

クラウド「ふう・・・いやゝ緊張するね！」

先生「ホラ！リラックス！」

ちなみにこの先生、一護の担任である名前は知らないので割合させていただく

先生「オゝス！元気か！？転校生紹介するぞ！」

浅野「女ですか！？」

先生「残念だったな圭吾！男だ！」

クラスの男のテンションが下がった！

先生「よし！入れ！」

ガララララララ・・・↑ドアを開ける音

クラウド「転校生の鬼神蔵人きしんクラウドです。よろしく願いします」

名前はスルーで・・・

男子「・・・・・・・・・・」↑啞然

クラウド（あれ？なんかおかしかったかな？）

男子「女だろう！？」

クラウド「おれは男だよ！！？どこをどう見ればそうなるんだ！？」
なんで男子がこういうかというと！

銀髪はそのままだが長くなり髪が腰まであって体つきが細くて明ら

かに女顔である

全員「全部」

クラウド「………」↑無言でカッター構え

全員「すいませんでしたああああ！！！！！」↑土下座

ちやつかり一護も土下座していた

まあこんな感じで終わって夜！

クラウド「いやゝ鵜滑稽うづけいの卵が手に入るとはうれしいね！」

鵜滑稽とは？

一ヶ月に一個しかうまないという高級卵である

クラウド「いやゝ最高だね！コーヒ―牛乳も買えたし！」

しかし！通り道には黒崎医院！ということとは？

クラウド「ん？虚ホロウ？めんどいな……あつ！一護戦ってるみたいだし

スルーでいいね！」

ちなみに一護は死神化している

そのまま通り過ぎようとすると……

フィッシュボーンDがこつちに爪をたて……ザシュ！

一護「！転校生！」

鵜滑稽うづけいとコーヒ―牛乳が入った袋が切られてしまった……中身ごと

クラウド（鵜滑稽うづけいが……いやそれならまだ許せる……）

そのままフィッシュボーンDがクラウドに切りかかる

一護「逃げる！！」

そしてあた……ガシッ！

クラウド「おいお前……何したか分かってるよな？」

らなかった……クラウドは片手で受け止める

クラウド「お前のせいで……コーヒ―牛乳が無くなったじゃないか」

後ろには鬼神が見えている……

クラウド「消えろ！」

クラウドはフィッシュボーンDの胴体を蹴る

普通だったら仮面を攻撃しなければいけないがそのまま消滅した

クロウド「ふう．．買いなおしだな．．．」

一護「待て！」

クロウド「ん？」

一護「お前も見えるのか？」

クロウド「さあね．．．」

そのまま歩いていった．．．

おい・・・俺の「ローヒー牛乳をどっけてくれる！」（後書き）

クラウド「けっこつ長め・・・」

クラウドの武器使用（前書き）

クラウド「井上の兄貴編です！」

クラウドの武器使用

とりあえず・・・次の学校にいったら・・・なぜか昨日の女子が転校扱いで来てました・・・

そのあと中庭に一護といっしょに呼び出され・・・

ルキア「とりあえず忘れてもらおう!」

ボン!と記憶入れ替えのアレをやらされ・・・

クラウド「あれ? あんただれだ?」

と忘れた演技をやったが・・・

ルキア「こやつ・・・なぜ効かない!」

クラウド「ソナコトナイヨキテルヨ(汗)」

ルキア「効いてないではないか!」

クラウド「チツ!」

一護&ルキア「舌打ちした!?」

一護「とりあえず・・・なんであそこにいたんだ?」

クラウド「^{ホロウ}買い物の帰り」

ルキア「なぜ虚をけりで倒せるのだ! しかも胴体だ!」

クラウド「加減したぞ?」

リミッターも外してないしね

一護「お前も幽霊見えるのか?」

クラウド「みえるぞ・・・てか名前で呼んでもらってかまわん」

ルキア「おかしい! 霊圧も見た限り低い! しかも加減だ!?」

クラウド「そんな事いわれても知らん・・・もういい? お昼ごはん食べたいんだけど・・・」

ルキア「仕方が無い・・・」

く屋上く

クラウド「なんでお前らくるんだよ!」

一護「え？なんとなく・・・」

ルキア「私はご飯を恵んでもらおうかと・・・」
・・・ちよつとかわいそうだから・・・

クラウド「仕方が無い・・・ちよつとただだぞ・・・よかったなぐ大めに作っただんだ今日」

パカッ！中身は

一護「おお！うまそうだな！」

ルキア「もらっていいのだな！？本当に！」

クラウド「いいぞ・・・」

中身は・・・まず筑前煮そのあと牛肉のたたきにてんぷら・・・さらにご飯に豚肉のしょうが焼き

ほうれん草の和えだ・・・

そのあと一護もくれといってきたのであげた

クラウド「まだ食えるか？」

一護＆ルキア「ん？まだ食べれる」

クラウド「じつは杏仁豆腐を作って・・・ってうお！」

朽木がすごい勢いで食いついてきた・・・で完食と言うことで・・・

ルキア「マタ作ってきてくれ！」

一護「お願いな！」

クラウド「おー分かった！」

なんか仲良くなった・・・

で夜・・・

クラウド「やっぱハイスクール奇面組は面白いな・・・」

マンガ読んでた・・・ていうかいつの時代だ！？

クラウド「やっぱワラトルマン編は面白いつて・・・オイ！」

いきなり壁が崩れて・・・なぜか隣で一護が戦っていたので・・・

クラウド「はあ・・・家を壊すなアアア！！！！（怒）」

銃を構え撃った・・・普通だったらあたらないはずだが・・・

アシッドワイアー「ギヤアアアアアアア！！！！」

尾の部分にあたり苦しんでいる・

アシッドワイアーは井上の兄貴です

そのあと原作どおりに行きました！

でも・・・

一護「なんだその銃！？ていっかなぜあそこにいたんだ！」

ルキア「なぜ虚ホロウにあたる！？」

クロウド「それは俺の家だから！」

一護「なるほど・・・」

ルキア「だがあの銃はなんだ！」

クロウド「これ？これは名づけて霊仏銃れいぶつじゅうまああの剣と同じようなものだ」

ルキア「おかしい・・・こんなものないはずだ！」

クロウド「当たり前だ俺が作った」

ルキア&一護「はあ！？」

なんで作れたかって？いくら堕ちたって神ですからね俺？

クロウド「とりあえず・・・もういい？」

一護「分かった・・・じゃあな」

ルキア「弁当楽しみにしてるぞ！」

二人が帰った後・・・

クロウド「さてと・・・」バシユ！

錬金術で壁を治してるクロウドがいた

クラウドの武器使用（後書き）

クラウド「必然的に長くなる・・・」

子供の霊にそれはないよな？（前書き）

クロウド「次は・・・柴田編・・・」

子供の霊にそれはないよな？

今屋上にいます・・・

ルキア「一護これどうやって飲むのだ？」

一護「あ？ストローさして飲むに決まってるだろ」

クラウド「どうでもいいが今日は中華風にしてみた・・・速く食べ」

ルキア&一護「いただきます！」

水色「きみら仲いいよね・・・あとこんにちは朽木さん」

ルキア「ん？小島君？」

水色「覚えてたんだ！僕は小島水色趣味は・・・」

一護「女アサリだ」

水色「ええ！違うよ！」

クラウド「そうだぞ一護」

水色「おお分かってくれるね！クラウド！」

クラウド「たしか女を食い物にするだろ？」

水色「もつと悪くなってるない！？それに年上しか興味ないよ！？僕は！」

一護「だから危ないっていつてるんだよ・・・」

水色「ん？」

一護：15歳　水色：15歳　クラウド：15歳　ルキア：すごい年上

浅野「おゝす」

一護「おゝ圭吾」

浅野「あれ？チャド来てないのか？」

一護「いや？」

水色「そういえば見てないね」

浅野「ややっ！そこにいるのは美人転校生の朽木さん！と転校生の鬼神か・・・」

クラウド「なぜ俺でテンションが下がる？」

浅野「理想郷！」

いきなり俺に飛びついてきたので・・・

ダダダダダダ！

浅野「ゴ、ゴフ！」

一護「いきなりエアガンで撃つのはひどくないか？」

クラウド「しるか」

浅野「と、とりあえず・・・昼飯パーティだ！」

水色「コーヒー牛乳と焼きそばパンで？」

浅野「うるさい！っていつかこのお重箱って誰が作ったんだ？」

クラウド「俺・・・」

浅野＆水色「・・・ちよつとちよーだい」

クラウド「いいぞ」

浅野＆水色「うまい！！ああ天国の味！」

ルキア（私はいつになったらこのジュースとやらが飲めるのだろうか・

・

ガン！

浅野「おう！」

いきなり浅野がけられた

浅野「いってーな・・・何をする・・・ゲッ！停学解けたのか！」

大島「よー黒崎、いつになったらその頭染めてくるんだ？その銀髪もウゼーんだよ」

一護「てめえこれは地毛だってんだろ、はやくそのヒヨコ頭どうかしろ」

大島「てめえ！」

クラウド「そのとおり俺の髪も地毛だ・・・目障りならお前が消えろ、停学ってことは次やったら退学の可能性があるだろ、そんなことも分らないのか？」

ああ悪かったそんなことも分からないほど馬鹿だったかこの鶏の糞

は」

大島「お前らとは気があわなそうだな・・・」

メリケンサックを取り出し

大島「シネエエエ!!」

殴ろうとしたがつかまれ屋上からドーン」

?「よっ」

一護「チャド!」

クロウド「別にやらなくても良かったのに・・・」

浅野「スタンガンに麻酔銃持ってたらなそういえるわ・・・」

そのまま変な鳥が現れてチャドと友達になって解散になった・・・

そして次の日の授業・・・

一護「チャド!チャドは来てるか!?!」

浅野「エッ!来てないけど・・・」

先生「ほくら楽しい現国の時間だぞ」

ダダダダ!一護は走り去っていった

クロウド「これはなんかあったな・・・」 「すいません気分が優れな

いので早退します」

でおれはそのまま一護の後をおう

先生「いっちゃんあった・・・まあいいか・・・」

いってみたら・・・

一護「オラア!」

戦ってた・・・手助けしてやるか・・・

クロウド「手助けしてやるか」

ルキア「無茶だ!危険すぎる!生身の体で!」

クロウド「大丈夫、大丈夫・・・」

そしていったん体を抜ける・・・

クロウド「トラン体は任せたぞ」

トラン「YES、マスター」

そのまま銃を取り出すと

クラウド「あのヒルが邪魔だ・・・モード機関銃」

銃が両方とも機関銃になる・・・

クラウド「・・・ファイア！」

そのままヒルを全滅させる・・・

シュリーカー「何してくれてんだてめえ！」

クラウド「何も・・・」

一護「こつちもいるぜ！」

そのまま一護が斬るそして首に剣をかける

一護「ひとつききてえ事がある・・・あのインコの子供殺したのは・・・

お前か？」

ルキア「なんだと？」

柴田「ボクノセイナンド、ママライキカエラセヨウトオモッタノガ・・・」

ルキア「馬鹿な！そんなこと不可能だ！」

トラン「そのとうりです、人を生き返らせることはすなわち世界の

崩壊を意味します、

そのため出来るはずがありません」

そのため出来るはずがありません」

シュリーカー「そうだ、殺したのは俺だ、俺が生きてるころの話だ

母親を殺そうとベランダまで追い詰めたがあのガキに足を引っ張ら

れて死んだ

そのあとあのガキの魂を抜いてインコに入れて罰ゲームをさせるこ

とにした

3ヶ月おれから逃げ切れればままを生き返らせてやるってな！」

3ヶ月おれから逃げ切れればままを生き返らせてやるってな！」

一護「そんなの出来るはずが無い！」

シュリーカー「そうだ、あのガキがあきらめかけようとしたときこの一言だ

『ママが助けを待ってるぜえ！?』このガキはこの一言でママ！ママと叫んで元気になるのさ！」

一護「・・・ハア！！」

シュリーカー「糞！剣のふりが甘くなってるぜ！」

クロウド「だったら銃はどうだ？」

クロウドの銃が仮面を一護の剣は舌を狙っている

クロウド「軽はずみで生き返らせる？そんな無責任なことをいつてるんじゃない」

どどんクロウドの口調は荒くなる

クロウド「あの子がどんなにがつかりするか分かってるのか？

期待を裏切られたときの気持ちがお前に分かるのか？

生き返ってほしい人が生き返る・・・それはうれしいことだ・・・

だがその気持ちを踏みにじられた・・・そんなことがお前に分かるか

ああああ！！！！」

クロウドは死んでしまった世話になった天使を思い浮かべながら・・・

・撃つ！

シュリーカー「ギャアアアアアアアアアアアアアアアア！！！！」

消えていくと思ったが・・・

いきなり目の前に門が現れ・・・

ルキア「地獄への門が開かれるぞ！」

そのまま門は開きシュリーカーは地獄へと堕ちた

そのあと柴田はソウル・ソサエティに逝き（誤字じゃない）インコは元どうりに戻った

子供の霊にそれはないよな？（後書き）

クラウド「うえーー疲れた・・・」

転生者・・・ねえ（前書き）

クラウド、ピーンポーン・

今回転生者と呼ばれる方がエクスカリバー並にうざいのでご注意ください

ちなみに顔を良くしてもらったのかハーレムを作ろうとしています
がマインドコントロールを使って作っていますのでご了承ください」

転生者・・・ねえ

今日俺は虚を倒しました・・・改造魂魄の影響か本体の方の性格がおかしかったですけど

ちなみになんかぬいぐるみが動いていました、なんか可愛いです・・・すいません可愛いのが好きなんです

家にスノーピーのヌイグルミが5個、カメのヌイグルミが1個
ピカチュウのヌイグルミが1個とテンのヌイグルミが2個あります

↑実話

とりあえず・・・学校に来たのですが・・・

仁「転校生の大原仁と言います・・・よろしくお願いします」
おおはらじん

女子（1部除く）「キヤアアアアアアア！イケメン！！！！」

大人気ですねはい、見てて面白いです・・・しかしあいつ霊圧高いな？・・・転生者か・・・

そんで昼休み・・・今日はついでに仁と井上が付いてきたんだけど・・・

仁「ねえ君！井上さんでしょ！」

井上「えっ！は、はい！」

仁「僕と付き合ってくれない！？」

ナンパしてます・・・どうなるか楽しみだな

井上「えっと・・・お断りします・・・」

仁「そうなの！？ルキアはなってくれたのに・・・」

ルキア「仁君大好き！」

あ、了承したんだって・・・ん？

・・・こいつマインドコントロールじゃがったな・・・あいつの本当の意識が奥底に眠ってるぞ

仁「君もなるよね？（ククク！マインドコントロールは便利だぜ！）」

井上「は！はい！」

あゝもう我慢できん

クラウド「はゝい・・・そこまで！！」↑ドロップキック

仁「グハッ！な、何を・・・君、彼女にならない？」

なんだこの男？最低だな

クラウド「初対面の相手に何を言う？当然断る」

仁「でもうんといってくれるよね？（こいつも落ちたな！）」

クラウド「はい！・・・なんていうと思ったかボケ！！」

クラウドは仁をエアガンで撃ちました♪

仁「いたい！な、何をするんだ！」

クラウド「いいからマインドコントロールを自分の意思で解けさもなくば・・・しばくぞ？」

仁「何を言う！してないぞ！おれに喧嘩で勝てると思うな！（チッ

！何故ばれた！）」

クラウド「よしじゃあやろうか・・・」

一護「おゝい食っていいか」

クラウド「ルキアと俺の分を残しとけよ！」

俺は構える

仁は思っていた・・・

仁（俺に勝てると思うなよ！最強の肉体をもらったんだ！

それにドラクエの技と始改と卍解と鬼道が全部使えるんだ！負ける

わけが無い！）

対してクラウド

クラウド（クズだな・・・リミッター外さなくていいかな？

・・・ていうかいくら堕ちたとはいえ神に勝てると思ってるのかな？）

そしてケンカは・・・

仁「オラ！正拳突き！」

クロウド「よつと！」↑避けて蹴る

仁「そんなもの当たるかって・・・グハ！」↑気絶

なにがおこったかと言うと・・・クロウドが蹴った瞬間、風が起こって壁に当たって気絶しました

そのあと仁をほつといて二人のマインドコントロールを解いて皆で食べた

で夜なんだけど・・・

仁「貴様！ナンなんだ！原作じゃお前なんかいなかったぞ！」

一護と同じ姿をした仁が・・・

クロウド「しらねーよ・・・ていうか転生者たる？」

仁「そうだ！お前は何の能力をもらったんだ！」

クロウド「何も」

仁「はん！じゃあ昼のはまぐれだな！なんもらわなかった奴に負けるわけが無い！」

クロウド「へえ！帰っていい？」

仁「だめだ・・・なぜなら俺はお前に倒されるんだからな！正解！千本桜陰芳！」

漢字違うかもしれない・・・

クロウド「ふう・・・よつと」

普通に避けたクロウド

仁「逃がすか！」

クロウド「ちよつと待て」

仁「なんだ？」

クロウド「なんのために転生したんだ？」

仁「決まってるだろ！ハーレム作ってオリ主になるためだよ！世界救うなんて真つ平ゴメンだね！」

クロウド「そうか・・・場所を変えよう」パチン！

いきなり風景が荒野に・

仁「なんだ？ここで決着つけようってか？」

クラウド「そうだ・久しぶりに本気を出してやる・」

仁「へん！やってみろ！どうせ勝てないがな！」

クラウド「・・・究極絶対鬼神化」

クラウドの姿は変わる・服は全て真っ黒に・髪の毛は赤・そして真っ黒な羽が出てくる・

仁「ただの脅しだろ！さあかかって来い！」

真正正銘の馬鹿のようだ！

クラウド「・・・真実を表せ・月光^{げっこう}・嘘を暴け・神斬^{しんざん}」

ここで武器の説明をしよう

月光^{げっこう}はクラウドが使ってた銃である・片方は真っ黒、片方は真っ白になっている

神斬^{しんざん}は（しんざん）はクラウドがもってる剣である・柄から握り手は白、刀身は黒だ

仁「な、なんだ！その剣は・・・」

クラウド「誇るがいい・堕ちたといえ神に殺されるのだから・・・」

仁「か、神だと！？」

クラウド「そうだ・貴様は俺の怒りに触れた・・・」

仁「た、助けてくれ！！」

クラウド「だが断る」

ザシュ！

仁「が・・・ガハッ！」

クラウド「安心しろ殺す価値が無いので殺しては無い、10日は目が覚めないだろうが」

転生者・・・ねえ（後書き）

クラウド「どうも！ちなみに正解もあります！」

どんな神経してんだ？この虚（ホロウ）は？（前書き）

クラウド「今日は一護の墓参り編」

どんな神経してんだ？この虚（ホロウ）は？

今日は学校休みました・・・なぜかって？

一護「ルキアは分かるがなんでお前が付いてきてるんだ！？」

クラウド「いいじゃないか！なんか嫌な予感がするんだよ！」

ルキア「そうだぞ一護！せっかくクラウドがお前の家族の分の料理も作ってきたとゆうのに！」

一護「なんか・・・心遣いが痛いわ・・・ん？何でこんなところに？」

いきなり一護は走り出した

ルキア「一護！？」

クラウド「どこいくんだ！？」

夏梨^{かりん} side

夏梨^{かりん}「おい・・・なんだその後ろの奴・・・」

グランドフィッシャー「ほう・・・そこまで見えるのか？優秀だな」

side out

ルキア side

ルキア（！虚^{ホロウ}の気配！しかしそんな指令は来ては・・・」

コン「どうしたんすか？姉さん？」

ルキアは携帯もどきを見ると・・・

ルキア「くそ！指令が遅いわ！たわけめ！！」

一護が走ってきて・・・

一護「おい！あっちの方向にいるんだよな！」

ルキア「そうだ！」

一護「・・・近い」

side out

クラウド side

クラウド「・・・どこいったあいつら・・・」

どこにいるかは分からなくなったクラウド・・・

クラウド「仕方が無い・・・影の（イズ）10（？）人」

影から2人が現れる

トラン「お呼びでしょうか？」

カルネ「なんなりとご命令を・・・」

クラウド「一護とルキアを探せ・・・なるべく早くな・・・」
トラン＆カルネ「かしこまりました・・・」

10分後・・・いました・・・場所を脳に送っておきます・・・

クラウド「わかった戻っていい・・・」

二人は影に戻った

クラ・・・

クラウド「・・・やっぱ疲れるな・・・早く完成させなきゃ・・・」

行ってみたら顔の傷以外目立った外傷は無かった

クラウド「・・・大丈夫か？」

一護「痛いけどな・・・」

ルキア「腹の傷治すのに霊力を全て使ってしまった・・・」

クラウド「ふゝん・・・じゃあ・・・ホイ！」

で一護の傷が治った！

ルキア「・・・お前何者だ？」

クラウド「さあ？」

こうして一護の母親の葬式が終わった

どんな神経してんだ？この虚（ホロウ）は？（後書き）

クラウド「明日卒業式・・・だるい・・・」

廃病院！さあ帰るか・・・って何をする！？（前書き）

クラウド「今日は観音寺編！」

廃病院！さあ帰るか・・・って何をする！？

今日・・・学校に行ってみると・・・

井上「ボハハハハハハハハハ！！！！！！」

・・・携帯ドコだっけ

ピッピッピ・・・テュルルルル・・・ガチャ

クロウド「あ、すいません精神病院ですか？いきなりボハハハハとか言ってる人がいるんですが？」

井上「ちょ！違うよ！鬼神君！というか知らないの！？」

ん？とりあえず電話は切ったが・・・

クロウド「それなんだ？」

井上「ぶらり霊場突撃の旅！略してぶら霊！水曜の8時からやってるんだよ！？」

クロウド「ごめん・・・おれ8時から○ねるのとび○を見てるから・・・」

井上「で、でもたまに9時からやってるよ！」

クロウド「9時は相○だから」

一護「同士！！」

クロウド「えっ？ああ、お前も見えてないのか・・・」

一護「家族がおおはまりしてる・・・」

クロウド「・・・ドンマイ」

浅野「お前から来るよな！？」

クロウド「何に？」

浅野「・・・見てないのか？」

クロウド「何を？」

浅野「ぶら霊」

クロウド「ああ・・・ごめん番組自体知らなかった」

浅野「そのぶら霊で空座町からくちやまちに来るんだ！」

一護「だから何で俺らを誘う！」

クラウド「右に同じ」

浅野「そんな！せつかく朽木さん誘ったのに！」

ルキア「ごきげんよう鬼神君♪黒崎君♪」

一護＆クラウド（ごきげんよう、ミス猫かぶり）

～廃病院～

でロケ地なんだが・・・

一護「なんでお前がいるんだ？」

クラウド「・・・弟が行きたいって」

一護「弟いたのか！？」

クラウド「いるよ・・・中学3年だけど・・・」

？「始めまして鬼神零きしんレイです」

あゝこの弟は俺と同じく追放された神です・・・
境遇が同じだったのでいっしょに生活してる

クラウド「始まる見たいだぞ・・・」

観音寺「イエーイ！さあ！成仏してやろう！」

そついうと開きかかっている胸の穴を広げ始めた

ルキア「ばかな！あんなことしたら虚化ホロウが早まるだけだ！本当に霊能力者なのか！？」

ダッ！そついうと一護が会場に入っただが取り押さえられた

一護「放せ！」

ルキア「こい！死神化するぞ！」

でもどつちも取り押さえられて動けない

そこに・・・

浦原「どつちも黒崎さん・・・」

死神化手伝ってくれた・・・いい人だ・・・

それで一護たちが虚ホロウを追って廃病院の中入っていったんだけど・・・

レイ「・・・どうしよう・・・行く？」

クラウド「いやゝあの建物の中でやったら壊れるな廃病院が・・・」
レイ「じゃあどうするの？」

クラウド「そうさなゝ屋上に行ったら姿を消していくぞ！」

レイ「分かった！」

で屋上に虚^{ホロウ}が・・・

レイ「行きます？」

クラウド「行くぞ！」

屋上までジャンプして・・・一護が切るタイミングで・・・指で切る！

それで・・・なんとか終わりました・・・

一護が一番弟子にされたけどね♪

あんときは二人で腹抱えて笑いながら転げまわったな（笑）

廃病院！さあ帰るか・・・って何をする！？（後書き）

クラウド「次は滅却師編です！」
クインシー

裁縫がなっていないな・・・（前書き）

クラウド「滅却師^{クインシー}ね・・・」

レイ「弓で僕に勝てるとでも？」

クラウド「・・・俺と弓で勝負するか？」

レイ「お断りします・・・」

裁縫がなつてないな・・・

今、俺たちは職員室に呼ばれています。

なぜかつて？

鍵根「これをみる！これが全国に放送されたんだ！全・国に！」
かぎね

そこには一護の姿がきれいに写っていた・・・

一護「・・・おれによく似ていますね」

鍵根「真正銘おまえだバカ者！」

一護「生き別れの双子の兄です、こんなところで再会することになるとは・・・」

鍵根「貴様・・・本当に教員をなめているようだな・・・」

有沢「先生！」

あ、有沢が反論しようとしてる・・・ていうか前井上と一緒にいなかった？

鍵根「なんだ有沢？」

有沢「黒崎君と朽木さんはTVに映っていたから呼ばれるのは分か
りますけどあたしと井上さんは呼ばれる理由が無いと思います」

おい・・・浅野と水色とチャドもかばってやれよ・・・

鍵根「おまえらいつしよにいたんだろ？」

有沢「たまたま会っただけです」

浅野「嘘だー！井上と有沢も誘っただろー！」

有沢「彼は妄想癖があるので信用しないでください」

おい、それはひどくないか？

一護「てめえ・・・お前らだけ助かろうとしてんのか・・・」

有沢「ベーーーーー」

浅野「じゃあ俺も・・・」

鍵根「お前は駄目だ！とめられなかったから同罪だ！」

クロウド「じゃあ私は失礼しまーす」

鍵根「お前も駄目だ」

クラウド「なんですか？」

鍵根「お前も誘われていったんだろ！！」

クラウド「誘われましたが番組自体知らなかったので断りましたし弟が行きたいといったのでついていっただけです」

鍵根「・・・本当か？」

井上「本当です・・・鬼神君の前でいつものアレやっても知らないみたいだったし・・・」

一護「8時からのはね○のと○らを見ていたってましたしね」

浅野「普通に断られました・・・」

鍵根「むう・・・じゃあ帰ってもいい・・・」

クラウド「ちよつと言わせてもらっていいですか？」

鍵根「なんだ？」

クラウド「まずひとつ・・・とめなかった・・・と言ってますがもしとめられない距離だったらどうなんですか？」

鍵根「うっ！」

クラウド「ふたつ・・・誘われただけ呼び出すのはおかしいと思いませんか？」

映ったのはともかく・・・誘われただけでよびだすのはまずいんじゃないんですか？」

鍵根「それは・・・」

クラウド「最後・・・話しも全く聞かずどんどん進め犯人に仕立て上げる・・・おかしいですね？」

もしかしたら理由があったかもしれないのに」

鍵根「・・・」

クラウド「いいたいこといったんで帰りまーす」

あーすつきりした

ちなみにそのあと皆逃げたらしいよ！

んで学校、期末テストが終わった後・・・

浅野「終わったー！ー！そして死んだ・・・」

水色「駄目だったみたいだね・・・まあ僕もだけど・・・」

一護「期末テストなんて人生においてさしたる意味をもたない！」

浅野「よくいった一護！バカ同士この悲しみをわかちあおうぜ！」

クロウド＆水色「そういうのは結果が出てから言った方がいいと思う」

浅野「どういうことだ？」

クロウド「一護の中間テストの成績」

浅野「こんなの上位50名しかのらない・・・って18位！？なんでのってんだよ！」

一護「帰宅部でやること無いから勉強してるんだよ」

浅野「このガリ勉やろう！」

いがみあつてな・・・

水色「そつえばさあ」

クロウド「なに？」

水色「期末テスト・・・どうだった？」

クロウド「わかんないな・・・」

水色「そう・・・」

簡単すぎたしな・・・フェルマー解くより簡単だった
んで次の日学校・・・（一護は石田と接触した）

浅野「ほう・・・50位以内に裏切り者がでないようだったな・・・」

「

水色「そうですね隊長・・・」

クロウド「黒崎23位だぞ」

浅野「みるな水色隊員！現実残酷なんだ！」

水色「はい！浅野隊長」

浅野「一護のアホー！ー！もう遊んでやんないからな！」

お尻ぺんぺんしてるけど水色はそこまで出来ないみたいだな

浅野「チャドははいってないもんなー一緒に遊ぼうなー」

チャド「む・・・」

クラウド「11位か・・・すごいな」

浅野&水色「ホゲーーーーー!!!お前らがそんな悪魔だと思わなかった!」

一護「そういえばあいつなんて名前だっけ?え」と石田ウイリー?違うな・・・」

井上「石田君がどうしたの?」

一護「知ってんのか!?」

井上「だってうちのクラスだもん!」

クラウド「ほれ・・・アレ見ろ」

一護「・・・2位・・・ていうかクラウドお前1位だぞ!?ていうか1300点ってなんだよ!」

クラウド「そんなこといわれても・・・詳しく書いたら・・・あれになつてた・・・」

一護「それでもおかしいだろ!」

井上「あれ?知らないの黒崎君?」

一護「何がだよ?」

井上「フェルマーの最終定理って知ってる?」

一護「しってるが・・・」

井上「あれを鬼神君が解いたんだよ?」

一護「はあ!?だってまだ15だろ!?いつ解いたんだよ!」
クラウド「5歳」

一護「・・・もついいや」

それで教室の扉から石田を見てるんだけど・・・

一護「壊れたヌイグルミ直してるぞ」

井上「ねーすごいでしょ!」

一護「ん?クラウドはどうした」

クラウド「まだ縫い付けが甘いぞ」

石田「だれだい君は!？」

一護「なにしてんだよお前は!？」

クラウド「裁縫がなくてなかったから・・・」

石田「ぼくの裁縫がなくてないだど!？じゃあ君はどうなんだ!？」
えゝと裁縫道具あつた

クラウド「いくよ!・・・ハイ!」

1秒かからずに猫のヌイグルミ作つてみた

一護&井上「オー!ー!!」

石田「負けた・・・」

それで帰つてレイといつしよにゲームセンター行こうと思つてたら

クラウド「虚^{ホロウ}多くないか？」

レイ「誰かが撒き餌をまいたんじゃない？」

クラウド「仕方が無い・・・二人で・・・」

レイ「がんばりましょうか・・・」

裁縫がなっていないな・・・（後書き）

クラウド「今日もう一回更新するかも・・・」

ふざけんな！大虚（メノスグランデ）が多すぎだろ！？（前書き）

クラウド「井上とチャドの能力開花はすっ飛ばす」

ふざけんな！大虚（メノスグランデ）が多すぎだろ！？

クラウド「作成^{メイク}・・・過ぎ去りし思い出、約束の思い出・・・ファイナルフォーム！」

ザシュザシュ！！！！

レイ「作成^{メイク}・・・クイーンブラスター？、強襲ビン・・・鬼人化！」
バシュ！バシュ！

レイ「減らないな・・・ポイズンアロー！」

クラウド「呼び出した奴あとでしめてやる・・・ザンテツケン！」
1秒10体のペースで狩っていく二人・・・

クラウド「ソウルソサエティは増援をよこさないのか！」

レイ「ルキアさんがいるから十分だと思ってるんでしょ！」

クラウド「ん？急に虚^{ホロウ}があつちにつて！」

レイ「ちよつと・・・あんなのなんであらわれるんですか」

クラウド「大虚^{メノスグランデ}・・・王属特務の管轄だぞあれ」

レイ「・・・兄さんばくも殺つていいですか・・・呼び出した奴」

クラウド「殺る前に拷問だな」

レイ「とりあえず・・・一護と合流しましょう」

クラウド「賛成」

で一護のところいったんだけど・・・

クラウド「おい・・・なんででめえがいるんだよ・・・」

仁「メノスを倒しに来たんだよ！」

ちなみにオレが神だつてことはショックで忘れたみたい
まあばらさなくていいけど・・・

レイ「そんなこといっても・・・石田と一護が倒してるよ？」

仁「遅かった・・・まあいい終わったし」

クラウド「安心するのはまだ早いぞ」

レイ&仁「えっ？」

だって・メノスが10体くらい現れてるんだもん
仁「ふざけんなあああああ!!!!!!」

クラウド「どっちが多く狩るか競争な」

レイ「負けたほうは？」

クラウド「まけたほうが1000円はらう」

レイ「のった」

クラウド「よい」

レイ「ドン！」

一斉に狩りを始める

クラウド「波動の四、ひゃくごうくわん白雷!黒枢!」

クラウド：2体

レイ「ニードルアロー!」

レイ：2体

クラウド「充電率200%・レールガン超電磁砲!!!!」

クラウド：4体

レイ「ファイナルアロー!!」

レイ：4体

クラウド「最後にでかいのを」

レイ「やりますか」

二人とも力をためて・・・

クラウド「グングニル!」

レイ「ハイパーアロー!!」

クラウド：5体

レイ：5体

結果：引き分け

クラウド「じゃあ戻るか!」

レイ「そうだね」

でもどっただけど・・・

クラウド「どうした？みんな鳩が核兵器をくらった顔してるぞ」
一護「いやそれ死んでるだろ！」
レイ「それをいうなら鳩が機関銃をくらった顔ですよ」
石田「いやそれも死んでるから！」
この後解散になったけど皆気づかなかった・
1匹の虫の存在を・・

秘密機動より中央四十六室へ

行方不明及び重禍違反者一名発見

東梢局十三番隊所属

朽木ルキア

ふざけんな！大虚（メノスグランデ）が多すぎだろ！？（後書き）

クラウド「肩が痛い・・・」

え？なにこいつ・・・邪魔！（前書き）

クラウド「これから4月にかけて更新できません・・・多分」

え？なにこいつ・・・邪魔！

次の日・・・学校行ったらルキアがいなかった・・・

クロウド「一護・・・ルキアどうした・・・全員の記憶から抹消されてるぞ・・・」

一護「それがだな・・・」

一護がことの経緯を話してくれた

クロウド「なるほど・・・ルキアは連れ帰られお前は浦原さんに助けられて戦いの勉強をすると・・・」

一護「そういうことだ」

クロウド「がんばれよ！」

一護「お、おう！」

ふむ・・・多分ソウル・ソサエティの扉を開くのは浦原だろう・・・どうせ仁もくるだろう・・・

とりあえず・・・協力しとくか・・・レイも来るかな？

～浦原商店～

ジン太「いらつしゃい」

クロウド「店長いる？」

そういったら浦原が出てきたよ

浦原「どうもー店長の浦原です・・・」

クロウド「あんた一護を鍛えるんだろ？」

浦原「！なぜそれを・・・」

クロウド「一護から聞いた・・・とりあえず協力する・・・来る時になったら教えてくれ」

浦原「まあ・・・味方は増えた方がいいですからいいでしょう・・・」

で7日後・・・の夜中の1時

クラウド「窓開けてまってるって・・・なんなんだろうな？」

レイ「さあ？」

そのあと・・・へんなペイント弾がとんできて・・・

バチュ

これからすぐに浦原商店前に集合！

クラウド「どこの殺人現場？」

レイ「あきらかにそうですよね・・・」

P / S

クラウド＆レイ「なんだ？」

今これを見てダイニングメッセージとか思った人

突っ込みの才能無いです

クラウド＆レイ「やかましいわ！」

でとりあえず走ってたら一護と井上と合流した

井上「あたし突っ込みの才能ないって・・・」

一護「おれもだよ・・・」

クラウド「おまえらもダイニングメッセージっていったんだ・・・」

一護「お前らは？」

レイ「殺人現場だね！って」

一護「いくぶんマシだよこのやろー」

で浦原商店の中

一護「じゃあ行ってくる」

それでソウル・ソサエティに通じる道に入っただけど・・・

夜一「走れ！」

で拘流がせまってきた・・・

石田「なんだあれは！」

変なのが追ってきた

夜一「あれは拘突じゃ！今追ってこなくても良いものを！」

一護「もうすぐ出口だ！」

井上「だめだ追いつかれそうだ！」

仕方が無い・・・

キュ・・・方向転換した

夜一「！何をしている走れ！」

クロウド「邪魔だあああああ！！！！！！」

思いつき蹴っ飛ばした

そしたら思いつき向こうに飛んで行ったとも♪

夜一「おぬし何者じゃ・・・」

クロウド「化けもの」

え？なにこいつ・・・邪魔！（後書き）

クラウド「首痛い・・・」

おい爺さんいるかー（前書き）

クラウド「原作ブレイク？微妙なところ・・・」
「応検索ワードにのせよう」

おーい爺さんいるかー

無事にソウル・ソサエティについたけど・

一護「お！あれが死神の住む町か！」

夜一「！バカモノ！そっちへいくな！」

一護がバカやらかしたよ・

レイ「うわ・・じだんぼう・・」

ソウル・ソサエティ、じだんぼうなどは東洋漢字に入っていないので変換できません

なので漢字は出てきません、ウエコムンドは出てくると思う

クロウド「壁破ってもいいけど・・」

一護「クロウド！チャド！あとどうでもいいけど仁！手を出すな！」

クロウド「大丈夫だ！面倒くさいからするつもりは無い！」

仁「わかった！」

レイ「へんなことしたら殺しますからね・・仁を」

とりあえず戦闘がおわってじだんぼうが門持ち上げたら・・ギンが神槍したからおちてきた・

・・だがチャンス！瞬歩！

ガターン↑門が閉まる音

一護「あーはいれなくなつた」

石田「ん？鬼神はどうした」

レイ「あ、メモが・・」

メモの内容

いまからちよつと白道門から中入ってくるわ

どうせ夜一が策を用意してるはずだからそっからこい

おれは爺さんと話しをしてくる

P・S 仁がへんなことしたら俺に後で伝える

地獄より恐ろしいものを見せてやるから

全員「？なにこのメモ！？」

レイ「とりあえず・・・じだんぼうの腕をギンに切られたから治してやろうよ・・・」

井上「あたしがやる！」

てなわけで平和だった

クラウド side

クラウド「おい爺さんいるか」

ギン「おやおやだれかな？」

クラウド「いいから通せ、クラウドって言ったら分かるから」

ギン「そんなん・・・通すわけないやん」

ギンがザンパクトウを開放したので・・・

クラウド「じゃま」

ギン「まぶしい！」

閃光玉なげつけた

さあ爺さんどこいくか

クラウド「爺さんいるか！」

？「なんじゃやかましい！」

クラウド「おれだよ・・・爺さん・・・いや山本元柳斎殿」

山本「爺さんでいいわい・・・何のようじゃ？」

クラウド「ルキアの処刑をなくしてくれ」

山本「むりじゃ中央四十六室の決定じゃ」

クラウド「タイミングがおかしい・・・見つかる時間も一護が成長したときだし」

山本「だめじゃ」

クロウド「ふーん．．じゃあ力づくで」

山本「むだじゃ．．戦闘は出来ぬじやるお主．．ましてや道具に頼
って．．ザンパクトウももっておらん」

クロウド「そうおもつかい？」

霊圧を副隊長クラスまで解放した

山本「おぬし．．このぐらい霊圧でできるとでも？」

クロウド「べつに．．やろうとおもえば13隊を滅^けせるんだよ．．」

山本「とりあえず．倒すぞ？」

クロウド「めんどいんで．．逃げる！」

おれはレポートしてレイたちの場所にいった．．

おーい爺さんいるかー（後書き）

クラウド「肩の疲れが取れない・・・」

全部自称じゃねえかあああ！！！！！（前書き）

クラウド「13話、不吉な数です恐いです・・・」

全部自称じゃねえかあああ！！！！

いま長老の家でお世話になっています・

夜一「村長殿・」

長老「なんじゃ？」

夜一「志波空鶴しはくかく、という者の所在をご存知か？」

長老「まさかあんたら・・あれで入るつもりか！？」

一護「あれってなんだ？」

クラウド「逝けば分かる」

一護「字が違う！？」

レイ「兄さん・違いますよ・池場わかるですよ・」

一護「また字が違うぞ！？」

そんなことしたら・

ドドドドドドドドドドドドドドドドブランゴ

クラウド「おい最後おかしいぞ」

気にしない、気にしない

てなわけで人間が飛び込んできました

？「いてて・ふりおとされた・よっ！久しぶりだなおっちゃん！！」

長老「何しに来たガンジユ！！帰れ！」

ガンジユというやつは一護をみる

ガンジユ「そうはいわれてもやだぜ！それよりなんでここにクソ死

神様がいるんだ？」

あ、目つけられた

ん？なんでおれは言われないかって？

だって一護みただけど服の色は白と黒が混じったやつだから・

レイも一緒！

一護「・・・」ドカツ！

「ガンジューゲフツ！何しやがんだ！ケンカ売ってんのか！」

一護「こっちのセリフだ！いきなりからんできやがって！」

クラウド「めんどくさいからほっとけ。」

長老「やはりこうなってしまったか・・・」

「ふっ！いいだろう教えてやる．．」

ガンジュー「オレはガンジュー！自称・西流魂街の深紅の弾丸にして！自称・西流魂街のアニキと呼びたい人、14年連続ナンバーワン！そして……！」

全員「全部自称だ――――！！！！！！」

いきなり一護を外に押し出した

井上「黒崎君！！」

レイ「助太刀しますよー」

手下A「アニキの邪魔すんなよ」

石田「すごい・・」

井上「イノシシにのってる……」

クラウド「とりあえず・・・動くな・・・」

全手下「ああ！？なんだと！？」

クロウド「周りに曲弦系をはってある少しでも動いたら・・・わかるよな？」

全手下「ツク！」

チャド「いつの間に・・・」

ちなみにこのあと時間だとか言っただけで帰った・・・

全部自称じゃねえかあああ!!!! (後書き)

クラウド「明日は中学の入学式だ・・めんどくさ!」

どんなデザインしてるの！？（前書き）

クラウド「週間ユニーク1000を超えました！」

レイ「ありがとうございます！」

クラウド「これからもよろしくお願いします！」

どんなデザインしてるの!?

いま空鶴の家に向かっている

クラウド「えーとけっこう遠いな・・・」

一護「本当にこっちであってんのか? なーってば!」

石田「うるさいな! 長老さんにもらった地図ではこの辺なんだよ! 文句があるなら君が歩けばいいじゃないか!」

一護「いや別に文句はねえけどよ・・・」

井上「でもさ、空鶴って人は門をくぐらずにはいるすごい人なのに、なんでこんなところにすんでるんだろ?」

石田「そうだけどさ・・・」

夜一「それはないの・・・奴はこういう場所を好むのじゃよ、すみかだけはコロコロかわるがわしがみればすぐ分かる

レイ「人目で?」

夜一「みえてきたぞ、あれじゃよ」

一護「こ、」

レイ「これは・・・!」

そこには『志波空鶴』というなの名前の旗を地面から突き出している手もつてるいるオブジェが・・・

チャド（これは・・・）

一護（一目で分かる以前の問題だー!!!!!）

井上（あと人気がないとこが好きだとか多分ウソだ!）

レイ（いくら言ってもあんな家建てちゃうから街中に住ませてもらえないだけだー!!!!!）

夜一「ふむ・・・今回の旗持ちオブジェは人の腕か・・・なかなかいい出来じゃな」

クラウド（毎回モチーフ違うのかアレ!?）

夜一「ほれ、どうした速く来ぬか」

全員（あれにいまから入るのか、あんな家はあるの誰にも見られたくねー！！！！）

あんな家が人気のないところに建ってよかった！ホント良かったよ！

？「何者だきさまら！」

？「奇怪ないでたちをしておるな！しかも一人は死神だ！」

？「怪しい奴らめ！このわれら兄弟がおさない！」

兄「夜一殿！あなたでしたか！」

弟「ご無礼をどうぞお入りください！」

どんなデザインしてるの！？（後書き）

クラウド「ここできりまーす、あとなんでこがねひこってうたない
かっていうとひこってうつとー文字ずっしか出ねーんだよ！！
アー！腹立つ！……！！……！！……！！」

いやちょ・・・やったら家壊れるから!?(前書き)

クラウド「いま天使と悪魔を見えます」

いやちよ・・・やったら家壊れるから!?

中に入った俺らそしたら・・・

そして空鶴とやらがいる間に行ったら・・・

空鶴「よう、久しぶりじゃねえか夜一」

夜一以外「く、空鶴って女ア!!?」

女だったのか!?予想外だよ!

空鶴「なんだ?そのガキどもは?」

夜一「その空鶴、カクカクシカジカ」

空鶴「四角いムーブってなにいつてんだ俺?とりあえずわかった、引き受けてやる」

ネタかよしかも乗るのかよ

夜一「ほんとうか!」

空鶴「浦原がかんでるし断れないしな、ただしあんあは信用してるがそのガキどもは信用してるわけじゃない、見張りの意味もこめて手下を一人つける依存はねえな?」

夜一「無論だ」

一護「手下?」

手下いるんだ

空鶴「手下つつつてもオレの弟だ、まだ糞ガキで使えねえがな、入れ!」

そしたらうぜえ顔が・・・

ガンジユ「志波岩鷲しばがんじゆと申します!以後お見知りおきを!」

そして場の沈黙が・・・

一護&ガンジユ「あああ~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~つ!!!」

!」

空鶴「なんだ?知り合いかお前ら?」

クロウド「違うな腐れ縁だろ」

でけんかはじめようとしたら・・・

空鶴「やめねえか！」

蹴りを一護にパンチをガンジユに繰り出した！

一護とガンジユに9998のダメージ！

二人は瀕死状態だ！

でそのあと案内にしてもらってでかい筒があるところに・・・

空鶴「これで空からおまえらぶち込むのさ！」

石田「空ア！？」

空鶴「おれは志波空鶴・るこんがい流魂街一の花火師だぜ！」

そのあとあの兄弟が筒をあげて・・・

空鶴「びびったかガキども！こいつが志波空鶴専用巨大花火台！！」

ガンジユ「かかくたいほう花鶴大砲だ！！！」

空鶴「勝手に台座に乗るんじゃないやねえ！！！（怒）」↑蹴り

ガンジユ「ごめんなさい！！」

石田「何の冗談ですか！そんなもので僕らを打ち上げたら絶対に死
つ！」ガン！

うわへんな玉がぶつかった

空鶴「れいしゅかく霊珠核だ、そいつに霊力をこめろ」

だがそのあと霊力を一護がこめられないのでガンジユがそれに霊力
込めて（その前に一護がガンジユに渡さなくて二人とも金槌でなく
られた）これを砲弾にして入るといって霊力集中の練習に入った

それで一護だけが出来なかった

ちなみに井上は丸く、石田は細長く、チャドは不安定だけどパワフルでレイは・・・

レイ「えーとこう？」

兄「に、虹色！」

弟「すごいですレイ殿！それに比べてクラウド殿はなぜやらない！」「え？それはだな・・・

クラウド「おれが0.1秒でもやった瞬間この家崩れるぞ、しかも霊力全然こめない状態で」

全員（レイ除く）「は？」

クラウド「だから一護できるようになったらOKだ、もともと鬼道はできる、ホレ」

とりあえずしゃっかほつの出しかけをやってみた

兄「むうそれなら大丈夫ですな・・・」

でそのあと一護が出来ていくときになって一護が夜一に出来るのか？と聞いたら夜一がすぐ出来て一護がorzの体制になってた（笑）でそのあと・・・

チャド「一護、クラウド・・・」

一護「多いか・・・」

クラウド「いやこれ以上は無理・・・チョット待て・・・霊力封印！」

石田「いきなり減った・・・」

レイ「兄さん・・・あとで解除しなよ・・・」

クラウド「ああ・・・」

でもそのあとガンジユが間違えて結局みんなバラバラになっちゃったしかも俺一人で・・・

剣八「よう・・・戦おうぜ」

・・・めんどいな

いやちょ・・・やったら家壊れるから!?(後書き)

クラウド「中学めんどい・・・」

やば・・・本性が・・・（前書き）

クラウド「どーもいま逃走中見えます」

やば・・・本性が・・・

クラウド「なんですか？いま急いでるんですよ」

剣八「まあいいじゃねえか、戦えよ！」

クラウド「お断りします」

剣八「つれない・・・な！！」　ブン！

いきなり剣八が切りかかってきた　カキン！

クラウド「危ないじゃないですか・・・」

剣八「ほう・・・ならこれはどうだ！」

カン！キン！カン！キン！

おれは全て受け止める

クラウド「話を聞いてください！」　ドガッ！

剣八を思いつき蹴った

剣八「ガハッ！」

クラウド「ふうこれでおわったか？」

剣八「んなわけねえだろう・・・」

うわ生きてるよ・・・

クラウド「はあ仕方がない・・・」　カチャ

剣八「なんだそれは？」

クラウド「さあ・・・なんでしょう！！」　バンバン！！！！

銃を連射する！しかし

カキン！カキン！

剣八「なんだそれは？甘いぞ！」

クラウド「ならば・・・真実を表せ・・・月光、嘘を暴け・・・神斬」

剣八「ほう・・・始解もできるのか・・・優秀だな・・・」

クラウド「いくぞ！」　バン！バン！

カキン！カキン！

剣八「無駄だといっている！」

クラウド「いま・・・受け止めたな？いまの弾を」

剣八「そうだ！なんかあんのか！」

クラウド「剣はどんどん・・・重くなる・・・いつもの10倍に・・・」

「ガクン！いきなり剣八の剣が重くなった！

剣八「てめえ・・・吉良のような能力だな・・・」

クラウド「その人の能力は知らんが多分重さを操る能力だろう」

剣八「そのとうりだ！」

クラウド「だがおれの月光の能力は違う、

これは相手に弾があたった瞬間、相手に無機物だろうが命令できる

しかも逆らえない・・・」

剣八「なんだと！？」

クラウド「ただしデメリットもある

これは1発につき・・・だ、機関銃となると10発あてないと意味がない・・・しかし殺傷能力もある。

だが制限時間もある、1発につき10秒、これがいまのオレの限界！あんたは3発あたったから30秒だ！」

剣八「なるほど・・・たしかに軽くなった・・・」

クラウド「そして・・・神斬の能力は・・・」ザシュ！

キン！

剣八「受け止めちまったが・・・なんだ？」

クラウド「相手の肉体、剣、その他もろもろを原子レベルまであやつる・・・」

例えばいまの攻撃であんたを切ったとしよう

そしたらあんたの体の炭素をあやつり鉛筆の芯レベルまで脆くするもちろんこれは自分にも可能だ・・・これも制限時間があり、あたっ

た数×5秒だ」

剣八「よくわからんが・・なんでもできるってことだな」

クラウド「ピンポーン！じゃあ諦めてくれる？」

劍八「やだ・・・ね！」

そのときに自分の体にあたり血が出る・・・

クラウド「あ、血だ……これオレの？ ああ……ハハハハ……！！！！」

劍八「なんだ狂ったか？」

[illegible]

乱射する・銃を・振り回す・剣を・

剣八「なに！？がああ！！！」

弾は全て当たり・・斬撃は全て斬りつけた

[illegible]

剣八「おい．．なんだその狂った笑みは．．．」

そのときのおれはきっと狂っていたんだろう……

なぜかわかんが・
・
・

クラウド「とどめえ！」

レイ「兄さん……やりすぎ……」

その時レイがとめてくれなかったら・・・きっと剣八を殺していただろう・・・

そのあと剣八の傷を全て治しその場をレイと一緒に立ち去った・・

やば・・・本性が・・・（後書き）

クラウド「逃走中がおもしろい！」

泊めてくれない？処刑まで！（前書き）

クラウド「明日から仮入部するんで更新ができ・・・る！」
レイ「出来るのかよ！」

泊めてくれない？処刑まで！

クラウド「さっきオレ何してた？」

レイ「別に何も・・・（言えない・・・暴走してたとは言えない・・・）

」

クラウド「しかし・・・暇だなー」

レイ「瞬間移動します？」

クラウド「あーそれ楽だな・・・」

？「なああんた進入者かい？」

クラウド「ああ？そうだけど・・・」

春水「オレは8番隊隊長、京楽春水（きやうりつはるみずい）・・・ちょっと止まってくんない？」

クラウド＆レイ「いいよ」

春水「ああだめ・・・っていいのかい！？」

クラウド「いやさ・・・この人たち全く話し聞かないからさ・・・」

レイ「ぼくもそうだった・・・」

春水「まあ確かにね・・・」

クラウド「とりあえず・・・聞いてくんない？」

春水「まあいいけど・・・」

クラウド「朽木ルキアの処刑について疑問は？」

春水「・・・あるね、おかしい時期が早すぎる・・・」

レイ「5番隊隊長の能力は？」

春水「水を自由自在に操る」

クラウド「手遅れだったか・・・」

春水「どうということだい？」

クラウド「おそらくあいつは・・・崩玉が目的だ」

春水「なんだって？おかしいじゃないかい」

レイ「おそらく中央四十六室は全滅です」

クロウド「ルキアの体内に崩玉があるだろう・・・」

レイ「いま中央四十六室にいくと愛染に感づかれる可能性があります」

春水「ふむ・・・」

クロウド「なので・・・13番隊隊長と共に処刑をとめてください」

春水「わかったよ・・・」

クロウド「それと・・・おれらを泊めて？」

春水「はい？」

クロウド「正直・・・他の奴らだと救出には時間がかかる・・・」

レイ「ならまず処刑まで待って・・・そこを叩こうかと・・・」

春水「分かった・・・」

ということでは京楽隊長の家で処刑まで寝ます

泊めてくれない？処刑まで！（後書き）

クラウド「はい・・・処刑までずっと飛ばします」

処刑！・・・愛染？なにいったおまえ・・・（前書き）

クラウド「今回8割暴走」

処刑！・・・愛染？なにいったおまえ・・・

さー処刑の日！

えっ？その間何してたかって？副隊長の伊瀬さんだけじゃ仕事が大変だから手伝ってた

夜はおれが料理作ってたし（笑）

とりあえず・・・GO！！

山本「これより、朽木ルキアの処刑を開始する！言い残す事はないか？」

ルキア「ありません・・・」

山本「でははじめ！」

そしてルキアが処刑されかける瞬間

ルキア「さようなら・・・みんな・・・」

一護「なーにしんきくせえ顔してんだ？」

その後、一護が副隊長3人素手で倒してれんじにルキア渡して朽木隊長戦

クラウド「へえ・・・一護やつ正解を習得したか・・・」

レイ「天才という奴ですかね・・・」

とまあこんな感じで一護の勝利で終わった・・・が

愛染「・・・崩玉を手に入れた！」

クラウド「おいおい・・・やっぱあんたが黒幕だったか！」

愛染「は！私と戦るか！？貴様ら如きの若造に負けるわけがないだろう！」

レイ「わかりませんよ？それこそあなた如きで私たちの相手が務まるでしょうか？」

愛染「ふん！貴様ら如きの一般人・・・たいした血筋も引いていない

だろう！貴様らの親も相当なろくでなしだったのだろうな！あたり
まえだ！こんな雑魚・・・いやクズなのだからな！」

ブチッ

・・・いまなんていました？

・・・俺らはいいとして・・・親を侮辱した？

こんなクズが？

おれらの親を？

・・・ふざけるんじゃないぞ

クラウド「・・・レイ」

レイ「わかってます・・・抹殺決定です」

愛染「さあかかってこ、ガハッ！」

クラウド「オレ上半身から攻めるからレイは下半身から・・・」

レイ「まずはハンマーで・・・いや神経つぶすと痛みがないから皮
をはぎましょう」

クラウド「それはいい考えだ」

ペリペリペリペリペリ

愛染「ギアアアアアアアアああああああああ！！！！！！
！！！」

クラウド「次は骨を折って・・・」

レイ「いえそれは最後にしましょう・・・次は肉を裂いて・・・」

愛染「ギアアアアああああああああああアアア！！！！！！」

一護「・・・恐ろしい・・・」

石田「いつも・・・そんな笑わないが・・・」

井上「あの笑い顔が怖い・・・」

チャド「・・・ブチギレしてるな・・・」

この後・・・10分後・・・

クラウド「このぐらいで済みますか」

レイ「そうですね・・怒りも収まってきましたし」

愛染（た、助かった）

クラウド＆レイ「済ましたところで第2ラウンドに移行しましょうか」

愛染「ふざけるなアアアアアアアア！！！！！！！」

ちなみにこの後何とか愛染たちはウェコムンドにいきました

（オマケ？）

一護「・・・おもったけどあの二人ドSだよな・・・」

石田「レイはともかく・・・クラウドは外道も入ってるし」

井上「やってる間生き生きしてるし・・・」

白夜「うむ・・・」

全員「いつの間にいたんだ！？」

白夜「正直・・・敵に回したくないな」

全員「ああ・・・それはいえる・・・拷問されたら・・・逃れる自身がない・・・」

処刑！・・・愛染？なにいったおまえ・・・（後書き）

クロウド「紅茶が飲みたい！」

こんな無茶な戦闘初めて聞いたわ！（前書き）

クラウド「人生美味礼讃・・・すきな曲です」

こんな無茶な戦闘初めて聞いたわ！

愛染は崩玉を手に入れ・・ウエコムンドに行った。
ソウル・ソサエティがおった傷は少なくなかった。
中央四十六室がやられ隊長格が3人抜ける事によつてだ。
旅過は恩人として向かい入れられた・・が

クラウド「爺さん・・なんでオレ呼ばれてるの？」

山本「おぬしの実力が見たいからじゃ」

クラウド「いや俺弱いから・・」

山本「全隊長、副隊長、席官VSクラウドでどうじゃ？」

クラウド「話し聞けやじじい！！」

この人おれの意見を見無視ですか！？

山本「ネコのヌイグルミを5個でどうじゃ？」

クラウド「喜んでやらせていただきます！！」 ↑ 可愛い物好き

～ 訓練場 ～

レイ「兄さんがんばれー」

一護「死ぬなよー」

井上「回復はするからー」

チャド「死ぬな」

石田「骨は拾つてやる」

クラウド（お前らオレが負けるの前提だろう）

山本「わしも参加する」

モブA「では・・はじめ！」

剣八「この前の恨み返してやる！」

クラウド「波動の三十三、しゃっかほう赤火砲！」

唱えと・・明らかに核兵器並の威力が・・

剣八「ガハアアアアア！！」

恋次「いやあれ赤火砲の領域超えてるだろ！」

クラウド「テヘ」

恋次「テヘ」じゃねえよ!!!」

クラウド「好きあり！神撃破しんげきは!!!」

衝撃波が恋次に襲い掛かる！ていうか津波LV！

恋次「ちよまギヤアアアああああああ!!!」

クラウド「まだいるのか・・・もうこれでいいか・・・」ギン!!

全員「・・・!!!!!!」バタバタ

何をしたかって？ちよつと殺気はなっただけだよ？1%も出してねえぞ？

ていうか隊長しか残ってないじゃん？（○○○）

山本「ふむ・・・本気で行くぞ!!ホラ!!」

掛け声カツコわる!あ、でも炎でか・・・あ、オワタ、（○○）ノドゴーン!!

レイ「・・・アレ？死んだ？」

山本「やりすぎたかのう？」

クラウド「誰が死んだってこのやろう・・・」

全員「あ、生きてたの？」

プチン!

あ、かるく切れたわ

クラウド「よしこれ耐えた奴には挑戦権与えてやる・・・」ゴオオオオオオ!!!!!!

すごい殺気がぶち当たる!全員（レイ以外）気絶した!

クラウド「ちよ、弱すぎだろ!?本当に隊長!?5%しか出してないぞ!？」

レイ「いや兄さんと比較しちゃ駄目だから!!」

ちなみにこの数日後俺たちは現実に戻った・・・

こんな無茶な戦闘初めて聞いたわ！（後書き）

クラウド「TUTAYAで人生美味礼讃借りたいけど・・・無い」

転校生！また転生者か・・・まともだいいが（前書き）

クラウド「コラボだよーーーーー」

レイ「ごめんテンション低くね？」

クラウド「いやさ走ってたら足の皮を足の2分の1すりむいて肉がでちゃって痛いんだよね」

レイ「ていうかどんだけ冷静？」

クラウド「騒いだらよけい怪我をする、処置しておとなしくするのがいい」

転校生！また転生者か・・・まともだいいが

とりあえず・・・おわって現世

そして学校が始まった

先生「転校生を紹介するぞーしかも二人だ！」

クラウド「また転生者かな？」

レイ「まともだといいですね・・・」

仁（転生者だったらつづす！）

先生「入って来い」

ガラガラガラ~~~~

ノエル「かみやノエル神谷聖夜です・・・よろしく」

女子「カツコいいいいいい！！！！！！！！！！」

真子「ひら平子真子やよろしく」

女子「あーーーーー」

仁（そんなやつはどこがいいんだ！）

クラウド（まともだとまじでいいんだけど・・・）

レイ（五月蠅い・・・ていうか平子かわいそうだな）
で夜・・・

クラウド「B〇SSはおもしろいな」

レイ「そうですねー」

ピンポン

クラウド「はい」ガチャ

ノエル「どうも、ノエルと申しますが」

クラウド「転生者の？」

ノエル「ばれてるわ・・・そのことで話が・・・」

レイ「まあ、上がってください」

クラウド「で？」

ノエル「個人的にはハーレム作る！とかないんですけど・・・他の転

生者が攻撃」

仁「みつけたぞ！貴様をつぶしてオレはハーレムを作る！」

ノエル「そうこいつです」

クラウド「勝手に人の家はいってくんない」

レイ「社会的につぶしますよ？」

仁「ちょうどいい．．お前らまとめてつぶしてやる！」

クラウド「レイ！」

レイ「はい！転移！」

シューーーーーン！！！！

転移しました

（パンデモニウム（真））

仁「さあ、まとめてかかってこい！！」

クラウド「心無い天使」

仁「な．．力が抜ける．．」

本来、心無い天使はあいてブレイブを1にする技です

レイ「ウインド！」

仁「体力が．．．」

ノエル「結！」

仁「あれ？詰んだ？」

クラウド「いい加減うつとしいんだよこいつ」

レイ「ころしちゃだめですよ」

そうしてる間に．．

仁「おれに効くか！ふん！」

ノエル「そういつてるあいだ解いたぞあいつ」

クラウド「めんどいから．．レイ、能力使っていいよ」

レイ「分かりました．．地獄^{ヘル}or天国^{ヘブン}」

その時！周りの風景が変わった！

仁「なんだ！？」

ノエル「．．．．なにこれ？」

レイ「被告人、大原仁、傷害及び無断進入及び能力乱用及び無断精神操作の罪により

地獄の六王の刑「1000年」に処す」

仁「なんだ！？なにがおこるんだ！？」

クラウド「レイの能力だよ、相手の罪によって罰の度が変わる、もちろんいいことをすればその分天国を見ることができ、それが地獄^{ルヘン}or天国だ」

仁の後ろから門が現れ無数の手が仁をつかむ

レイ「これにて閉幕」

仁「だれか、助けてくれ！！」

レイ&クラウド「地獄で罪を償え」

仁「ギアアアアアアアアあああああ！！！！！！」ギーー
ーボタン

ノエル「恐ろしい能力だな・・・」

レイ「ぼくなんて序の口ですよ・・・」

ノエル「そういえばクラウドさんはどんな能力ですか？」

クラウド「クラウドでいいよ、おれは・・・無い」

ノエル「へっ？」

クラウド「おれに能力は無い」

レイ「兄さんはなぜか無いんですよ、ていうか緊急事態の時使わなかったからないんでしょうね」

ノエル「ふーん」

・・・正確には無いんじゃない、『無』と『有』だ・・・レイみたいな能力も使えるが・・・あんなあまっちょろいもんじゃない、あんなもん見せたくないし・・・

こうして仁はこの歴史から消え去った

転校生！また転生者か・・・までもだといいが（後書き）

クラウド「まだ足が痛い・・・」

ツチ！こんな時期にくるんじゃないやねえ！！（前書き）

クラウド「えーしばらく更新できなくてすみません

これからもしばらくこの状況が続きます

訳はですね・・目が悪くなっちゃって・・今まで視力はA以上だったのC（0.5）になっちゃったので・・

パソコンを自重するのでご理解をお願いします」

ツチ！こんな時期にくるんじゃないやねえ！！

とりあえずクズ（仁）を葬って次の日の学校終わった後
今、現在

クロウド「注げ、満たせよ、黄金の杯♪盛れよ、溢れよ、欲望の皿
♪純正の血は唇を♪そ♪めるだ♪ろう♪」

カラオケやってます♪

クロウド「食べて♪飲んで♪吐いて♪出♪し♪泣いて♪わ♪らい生
きて♪死♪ぬ、（中略）哀れなる♪伯爵の♪ようにー……」

レイ「90点！」

ノエル「おー！」

3人でね！ちなみに曲は人生美味礼讃です……点数は本当に出した
数値

レイ「じゃあぼくは人柱アリス！！」

ゴオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ！！！！！！

ノエル「虚ですか？」

クロウド「違う……この霊^{アランカル}圧は破面だ！！！！」

レイ「行きますよ！！！」

ノエル「はい！」

クロウド「ごめん先行ってて！！金払っちゃうから！」

レイ&ノエル「分かった！」

その後……現場到着

ウルキオラ「退くぞヤミー」

ヤミー「分かったよ……」

夜一「逃げる気か？」

ウルキオラ「違う、お前らが殺すに値しないからだ、サラバだ……
「ゴン！！」

レイ「逃がすかボケ!!」

レイはウルキオラにまたがりガ○ツの田中星人のようにラッシュをくりだす!

ウルキオラ「グフ!!ガハツ!!」

ノエル「そちのでかいのも逃さん!!」

ノエルは鋼○錬金○師のブラッドレイ並に剣をヤミーに繰り出す! ヤミー「手めえら・・ひどすぎガハツ!!」

クロウド「安心しろ・・修復不可能になったら帰してやるから・・あの世に」

ウルキオラ&ヤミー（生かして帰す気ねえええええ!!!!!!!!!!）
夜一「あいかわらず・・・ひどいのお・・」

浦原「・・ドSですね・・・」

ちなみに5日後―（この間ずっと拷問）・・学校行ったら一護がむっっちゃ落ち込んで・・

しかもなぜか隊長格とかいた・・

元気付けようといっぱいケーキ作って（ウエディングケーキ10個分）一護の家に行った

ピンポン

一心「はい?」

クロウド「すいません鬼神と申しますが・・一護いますか?」

一心「あーいますけど」

クロウド「ケーキあるんで家族で食べてください」

一心「・・・どーも」

レイ「お邪魔しまーす」

ノエル「黒崎の家初めてだな」

一護「うわ!?なんで来てんだ!?」

クロウド「ケーキ返してもらうか」

一護「どうぞこっちに!」

乱菊「あら・・・」

一角「ほう・・・強そうだな」

レイ「とりあえず・・・そんな無駄ばなししてる場合じゃないでしょう?」

日番谷「そのとうりだ・・・」

ちなみにこのあと・・・ルキアの下手な絵で破面について説明した

日番谷は大虚には3種類いると・・・説明したが・

一護「へーそんないんだ」

クロウド「実際は3種類ではないがな・・・」

日番谷「どういうことだ?3種類だけだろうが・・・」

クロウド「実際にはもう一体いる・・・ヴァストローデの上、マック
スカーレットが」

日番谷「・・・強さは?」

クロウド「・・・俺と同等」

全員「!!!!!!」

クロウド「こいつは1体しか存在しない・・・なおかつ100億年に
一度生まれ人などに危害を加えない

戦うのはただひとつ・・・やつの怒りに触れた時だけ」

レイ「虚園ウェコムンドに行った時はこいつの領域テリトリーに入らないでください・・・」

クロウド「もし戦うとしたら・・・世界が終わる可能性がある」

愛染が・・・こいつを仲間にしたらまずい・・・世界は・・・無にかえる

ツチ!こんな時期にくるんじゃない!!(後書き)

クラウド「もう寝ます!」

ファー・・・ごめん時間になったら起こして・・・（前書き）

クラウド「今日メガネを買うので・・・更新！あとちょっと視力が戻った！」

ファー・・・ごめん時間になったら起こして・・・

とりあえず話し合いが終わった後・・・

クラウド「いやー面白かったねー」

レイ「そうだねー」

楽しんでいただけ・・・

クラウド（やばい・・・そろそろ限界・・・）フラ・・・ガシッ

レイ「大丈夫？やっぱ・・・」

ノエル「ていうかどうしたの！？」

クラウド「だめだ・・・人ごみの中にずっといると死ぬ」

そう！以外に人ごみの中が駄目なのである！

レイ「とりあえず・・・家まで・・・」

ノエル「あんな特性があるとは知らなかった・・・」

で家について・・・

クラウド「ごめん・・・俺は寝るわ・・・」

レイ「お休みー」

ノエル「お休みー」

就寝しました♪

クラウド「あーよく寝た・・・」

レイ&ノエル「寝すぎですよ！？」

クラウド「マジ？ドンくらい寝てた？」

ノエル「一護たちが虚界に乗り込んで・・・」
ウェコムンド

レイ「ソウル・ソサエティが偽物作って待ち構えています」

クラウド「そこまで！？っていつかまずい！マックスカーレットが怒るぞ絶対！」

レイ「ていうか愛染きてます」

クラウド「もう47巻じゃねえか!？」

[illegible]

レイ「あれ……この声って……」

ノエル「なんですか？」

クラウド「……マックスカーレッドだよ……」

レイ「そういえば昔天界で討伐に行ったら……」

クラウド「ゼウスだけ残して全滅だっけ？」

「マックスカーレッド、貴様か……我が領域に入ったものは……」

クラウド＆レイ＆ノエル「違います」

マックスカーレッド「嘘をつくな・貴様らだろう・一片の骨も残さず壊してやろう！」

クラウド「ツク！レイとノエルは愛染とこいつて市丸助ける！」

レイ「分かりました！」

ノエル「分かった！」

マックスカーレッド「逃がすか！セロ！」

カキーン！

クラウド「通さねえよ……」

マックスカーレッド「ほう……やるではないか」

クラウド「場所移すぞ・・」パチン！

そうすると・・あたりが荒野に・・

クラウド「始めようか」

マックスカーレッド「殺し合いをな！」

ファー・・・ごめん時間になったら起こして・・・（後書き）

クラウド「えっ？飛ばしすぎだって？破面編は長いんだよ・・・」

アンケート：次に行く世界

一：家庭教師ヒットマンリボーン

二：ムヒヨとロージの魔法法律相談事務所

三：リクエスト

クラウド「決めたとしても票が多いのではないのでリクエストにもチャンスがあります」

わり・・・さきいつてるわレイ（前書き）

クラウド「今回でBLEACH編は終了になります」

わり・・・さきいつてるわレイ

クラウド「手加減してくれるとうれしいなー」

マックスカーレッド「戯言を・・・百獣の王ライオンは兎を狩るのも全力だぞ？」

クラウド「そういえばそうだね・・・」

クラウドはザンパクトウと霊仏銃をとりだし・・・

クラウド「真実を表せ・・・月光、嘘を暴け・・・神斬」

マックスカーレッド「では始めようか・・・」

クラウド「そうだ・・・な！」

クラウドは今の間に月光を機関銃にかえ撃ちまくる！

バババババババババババババン！！！！↑実際こんな音です

マックスカーレッド「フン！」

でも刀で全部はじくが・・・

クラウド「着弾数×1000！刀に命令する！自身の主人を刺せ！！」

そうすると刀はゆうことを・・・

マックスカーレッド「ああ？なにやってんだ？」

聞かなかった・・・

クラウド「あ・・・やっぱだめか・・・」

マックスカーレッド「隙だらけだー！！」

ザシュ！クラウドに腹に剣がささる

クラウド「ゴフッ！はあはあ・・・」

マックスカーレッド「こんなものか？」

クラウド「クッ！治療しますー！」

そうすると腹の傷が治まっていく・・・

マックスカーレッド「やっぱ一撃でしとめなきや駄目か？」
クラウド「その必要はねえ．．．いんようげっこう卍解！陰陽月光！ましんさんきょう魔神斬響！」
形は変わる．．．陰陽月光は銃は一つになり銃身は黒、持手は白になっている

魔神斬響は赤黒い刀身をし握り手は黒い

マックスカーレッド「ほう．．．」

クラウド「あんたぶった切って戻ってやる．．．」

マックスカーレッド「ふん！我に刃向かうなど．．．一千万年早いわ！！」

ガキイイイイイン！！！！

お互いの剣と剣がぶつかり合う！！

マックスカーレッド「ん！？」

いつのまにかマックスカーレッドに傷が付いている．．

クラウド「陰陽月光、魔神斬響はともに同じ能力を持っている．．

その能力は相手の持ち物に当たったら相手にその分の傷を負わせる．

．．．

マックスカーレッド「．．．恐ろしい能力だな．．だが甘い！！」

ドカン！！

クラウド「ゲフ！！」

思いつきり吹っ飛ばされたクラウド．．．体中に傷が付いている．．
マックスカーレッド「口ほどにもない．．死んだか」

マックスカーレッドは立ち去ろうとするが．．

クラウド「わり．．．レイ先いくな．．リミッター解除！

L V M A X！魔力、気力、神力を全て解除！身体能力を最大値まで

解除！！」

マックスカーレッド「リミッターだと！？」

クラウド「．．これだけは使いたくなかったんだ．．まだうまれて

から20年・

体が潜在能力についていけないんだ・

だが・いまは貴様より・・・・実力は上だ!!」

クラウドはマックスカーレッドに攻撃を仕掛ける!!

マックスカーレッド「なに!? グワ!!」

だが避けきれずにくらって吹っ飛ぶ!

クラウド「これで最後だ・・・・魔神の一撃を・・・・神の一撃を受ける

!!」

マックスカーレッド「ぐ、グアアアアアアアアアアアア!

!!!!!!!!!!」

マックスカーレッドは消滅した・・・・

クラウド「おわった・・・・ごめんなレイ、ノエル・・・・先に次の世界に
いくわ・・・・」

その瞬間クラウドの肉体は消えた・・・・

わり・・・さきいつてるわレイ（後書き）

クラウド「BLEACH 編終了！次の世界は・・・みてからきめて」

転移先で行き倒れ・・・（前書き）

クラウド「さあ・・・今回は何編だ!!」

転移先で行き倒れ・・・

シュン！！ 何もないところから人が現れた

クラウド「転移ってつかれるんだよね・・・」

グー・・・その瞬間腹が減った

クラウド「・・・まずい頭がフラフラする・・・飯・・・」バタッ

クラウドはそのまま倒れてしまった

？「わっ！人が倒れてる！とりあえず運ばなきゃ・・・」

そのままクラウドは運ばれていった・・・

1時間後・・・

クラウド「ん？ここは・・・」

？「あ？目覚めた？」

クラウド「あんたは？」

ロージ「僕は草野 次郎くさくの じろうロージってよんでね！」

クラウド「見たところ事務所っぽいけど・・・何をしてんの？」

ロージ「うーん・・・ここは魔法法律相談事務所だからね・・・それだけだよ・・・」

クラウド「ふーん・・・」

そしたら奥にいたやつが来て・・・

？「おまえ・・・何モンだ？」

クラウド「何モンだ？とはなんですか？」

ロージ「もお・・・ムヒヨったらいきなりなに言い出すのさ！」

クラウド「ムヒヨ？」

ロージ「あ、説明してなかったね・・・ムヒヨ、本名むひょう六氷 通執行とあめ人さ！」

クラウド「よろしく・・・」

ムヒヨ「何事もなかったようにすすめてんじゃねえよ・・・

おまえ・・・いきなりあそこから現れた・・・霊じゃねえよっだが？」

クラウド「あーそれは・・・失敗したんだ・・・」

ロージ「失敗？」

クラウド「魔法具をつかわずに移動できるように実験したら失敗してさ・・・」

ムヒョ「お前・・・関係者か？」

クラウド「そのようなもんかな？」

まあ実際・・・地獄の奴らと仲いいから教えてもらっただけだけど・・・

ロージ「へえ・・・そうなんだ・・・」

クラウド「ああ自己紹介が遅れた・・・おれは鬼神蔵人きしんクラウドよろしく」

ムヒョ「ヒヒッ！よろしくな・・・」

ロージ「よろしく」

クラウド「頼みがあるんだけど・・・」

ロージ「なに？」

クラウド「ここで・・・働かしてくんない？」

ロージ「一般人をここで働かせるわけに」

ムヒョ「いいぞ」

ロージ「いいの！？」

クラウド「・・・一応執行人の免許持つてるから」

ロージ「ええ！？」

ムヒョ「ヒヒッ！仕事が楽になるな」

クラウド「ちなみにお金足りなくなったら言って！一ヶ月に100億くらいしか出せないけど・・・」

ロージ「十分だよ！？」

こうして・・・最凶（誤字にあらす）の事務所が誕生した・・・

～オマケ～

クラウド「ロージ！風呂入ろうぜ」

ロージ「ええ！？女の子と入れないよ！！！」

クロウド「・・・男だ」

ロージー&ムヒヨ「ええ!？」

クロウド「なにムヒヨまで驚いてんだ!?!?ていうかなんでみんな間違えるんだ!？」

ロージー「鏡を見なよ・・・」

ムヒヨ「ヒヒッ!同感だ・・・」

転移先で行き倒れ・・・（後書き）

クラウド「ん？なんで執行人免許もってるかった？
話してる最中、脳でネットにアクセスしてとった」

来てから最初の依頼（前書き）

クラウド「どーも・・・雨すごいですね・・・」

来てから最初の依頼

ここは魔法法律相談事務所・まあここで働く事になったわけなんだけど・・・

ロージー「ぬおおおお！！！！ムヒョー！！ジャピン返せ！！僕が買ってきたから僕が先いい！！！」

ムヒョ「ヒッヒ！こりやすごい事になってるな！」

クラウド「あーやっぱ面白え・・・」

ロージー「人の楽しみヲオオ！！・・・オ？」

みたら・・・依頼人来てた・・・依頼人！？

クラウド「いらっしやいませ・・・魔法法律相談事務所へ・・・」

？「え！？は、はい・・・」

ロージー「いつの間に燕尾服に！？」

クラウド「ツフ！お客様が来たら・・・精一杯おもてなしを・・・」

ムヒョ「ヒッヒ！もう執事じゃねえか・・・」

だめかなこの格好？

ロージー「ゴホン・・・じゃあ改めていらっしやい・・・」

クラウド「名前は？」

理絵「・・・井上理絵いのうえりえ」

ムヒョ「無愛想な奴だな・・・」

クラウド「ていうかきみ・・・足大丈夫？重そうだけど？」

理絵「！！なんでそれを！」

ふむ・・・あたりかおそらく・・・霊だろう

ムヒョ「まあ・・・魔法法律なんて信じちゃいねえだろ・・・」

そーいうと・・・理絵の足から・・・

理絵「ひい！？」

狐が・・・

クラウド「やっぱ動物霊か・・・」

ロージー「とりついてじわじわよわらせる悪霊!!」

ムヒヨは分厚い本を取り出し・

ムヒヨ「魔法第884条『獣性無断寄生』の罪により・『追死』の刑に処す!」

そういうと狐の霊は消えた・

ムヒヨ「さて・本題に入ろうか?」

クラウド「動物霊は霊に悩んでる奴につく・」

ロージー「教えてくれると・うれしいんだけど・」

そういうと理絵は口を開く・

理絵「・五番線」

そのあと俺らは別行動をとり霊について調べる事にした・

ちなみにロージーはバレバレの変装をしてた

とりあえず・これが一番

クラウド「さーて・情報を集めようか・まずは5番線の幽霊について検索する」

パソコンだ・情報量が大きいからな

ふむ分かった事がいくつかある

・5番線の幽霊は岡崎妙子^{おかざき たえこ}

・

・それは依頼人、井上 理絵の親友だった

・おそらく・成仏できず悪霊化した可能性がある

・月日がたっているの・かなり厄介な事になってるかもしれない

そして・夜、JR橋木駅、五番線ー

クラウド「さて・霊^{れいりん}燐がこいな・」

警官「こらー何をしてる!」

駅の中に入ったら・警官が30人くらい・

クラウド「おおいな・これでいいか」

クラウドは懷から銃を取り出し・

パンパン！撃った！頭に

クラウド「・・・よし」

ロージー「『よし』じゃないよ！ころしちゃだめだよ！」

クラウド「殺してねえよ、麻酔銃『Mk-22』だ」

ムヒヨ「ヒッヒ！便利なもん持つてんな！」

クラウド「ていうか急がなきゃ・・・まずいぞ」

そのあと駅のホームに行ったが・・・

クラウド「まずい！ムヒヨ！」

ムヒヨ「ヒッヒ！分かってる・・・『物体無断霊化』及び『魔法律執行妨害』の罪により・・・『冥王の晚餐』の刑に処す！」

そして妙子・・・悪霊は食べられようとしたが・・・

ガシッ！

理絵「ごめんね！もう離さないから！」

ムヒヨ「それでいいんだな？にぎってたら・・・二人まとめて・・・地獄行きだぞ？」

ロージー「そんな！」

クラウド「・・・しかたねえよ」

理絵「私が悪いの！私が・・・あの時に離さかったら！」

悪霊「いいよ・・・理絵・・・私が・・・わるいんだもの・・・」

そのまま冥王に悪霊は飲み込まれたが・・・

ムヒヨ「アロア」

冥王「アロ」

ムヒヨ「冥王の気が変わった、妙子は『三途の川』行きに変更だ」

ロージー「ムヒヨ！」

だが・・・このあと理絵と会う事はない・・・

それはムヒヨの魔法律ルールその1『依頼人との再会禁ず』にあるからだ・・・

これからも・・・『きつと波乱万丈なことがあるんだろうな』とお

もうクラウドだった

来てから最初の依頼（後書き）

クラウド「首が痛い・・・あとケイタイ届いた!!!!」

カレーは肉がなくてもおいしい（前書き）

クロウド「・・・春の書店クジ当たったら図書カード5万円分！
それがあたっ・・・・・・・・・・ではないけど発表が明日」

カレーは肉がなくてもおいしい

降り注ぐ雨の中で六氷魔法法律相談事務所では・

ロージ「はあ・お財布大ピンチ・ムヒヨお昼おかずなしじゃだめ？」

ムヒヨ「アホかおまえ！ふりかけでもいいから買って来い！」ガチガチ

といってムヒヨは魔法法律書をかんでいる

クラウド「大変だな・」

ロージ「ていかなにひとりだけ食べてんの！？」

そういつてロージはクラウドの食べ物奪おうとする

クラウド「やるかボケエ！！これは俺のハツシウドポテトじゃあ！！タンポポいためてくつてろや！！」

ムヒヨ「ヒヒヒ・キャラ変わってるぞ・」

クラウド「しかたがない・」

そういうとお財布から・

クラウド「はい図書カード」

図書カードを取り出した

ロージ「図書カードじゃ食べ物買えないよ！？」

クラウド「これで食べれる野草の本買って来い」

ロージ「根本的な解決になつてないじゃないか！！」

クラウド「あと王様ゲー○を漫画と本どっちも全部かってこい」

ムヒヨ「おれは逆切れ刑事だ^{デカ}」

ロージ「結局ぼくパシリ！？もうしかたないな・買ってくるよ
そういつて買いに行こうとドアを開けて・

？「あ、あの・」パタン

また閉めた

ロージ「で、でたあああああ！！！！！！？」

とりあえずあらためてイスにすわり依頼人の話を聞く事にした
ロージー「ほんつとーにごめんなさい！田口 キヨミさんっ！」

田口「いいんですよ・・元気なのはいいことだ・・
しかし若い人でよかった・・・」

ロージー「？」

田口「カレーを召し上がってください、お近づきの印です」
そういうとムヒヨとロージーは目を輝かせた・・

完

クラウド「いや終らないからね！？」

ムヒヨ「なにいつてんだてめえ・・・」

クラウド「ああ・・なんか変な電波が・・」

ムヒヨ「？」

ロージー「と、とりあえず依頼内容を・・」

話の内容はこうだった

まずは依頼人の話をムヒヨとロージーがカレーを食べながらだった
のでスタンガン（100万ボルト）で説得（脅）して話を聞かせ・・
その途中にムヒヨがそのカレーに「肉がねえ」といったので腕の関
節を外した（笑）

その時に「おい、おれの間接はそっちの方向に曲がらなああ！？」

といったたのは気のせいだろう

とりあえずその「肉ねえ」発言で田口さんの寮で毎週日曜日カレー
パーティを開くという話を聞いた後

そのあと三日前あたりからおおきな一つ目の人影が出てくる、それ
が三日続き全員退寮するといった

そのとき田口さんは寝ているので気づかないらしい
そして田口さんは話の最後に・・

田口「私は・・寮をつぶしたくないんです・・」

その時にロージは涙ぐみ・ムヒヨは質問をした
ムヒヨ「・・・ほかに最近何か変わった事は・・・？」
田口「変わった？ああ・雑木林を駐車場にしましたが？」
そのことに俺は何か・違和感を覚えた

～田口さんの寮～

ロージ「うわぁ・いかにもって感じだね・・・」
クラウド「そうだな」

そういつて王様〇ーム（本版）を読みながら答えた
ロージ「いや緊張感もとうよ・・・」

そういつてる最中に駐車場にムヒヨが向かい縁石をはがした・
ムヒヨ「この縁石・墓石に見えんか？」

あげると・たしかに名前が刻まれていた

ロージ「なんで・墓石が駐車場に・・・」

ロージはブルブルと震えている

クラウド「やっぱりか・・・」

ロージ「やっぱり？」

クラウド「おそらく雑木林に墓場があつた・・・」

ムヒヨ「そこにテキトーな業者がやってきて・・・」

クラウド「林から出てきた墓石を縁石にしたんだろう」

ムヒヨ「しかもこれは無縁仏・面倒なことになりそうだなぜ・・・」

～寮の中～

クラウド「おれちよつとトイレ行ってくるわ・・・」

ロージ「気をつけてね・・・」

しかしクラウドが向かうのはトイレではない・・・

クラウド「やっぱいたか・・・」

田口さんの部屋だ・

そこには田口さんがいた・しかし

クラウド「田口さん・あんた額に目なんかあつたか？」

田口？「ちょうど・・・このババアには取り付きにくいところだった・

・
お前を宿にさせてもらうぜ！！」

クロウド「おまえには無理だ・・・」

そういうとクロウドは分厚い魔法律書を取り出した・

田口？「はっ！いみがねえことはすんなよ！！」

そういうと俺に襲い掛かってくるが・

クロウド「魔法律第881条『人体無断寄生』の罪により・・・『赤い部屋』の刑に処す』

そうするといきなり赤いドアがあらわれ開き無数の手が出てきて・

田口さんに寄生していた霊をつかんだ

霊「くそ！てめえそっちの輩か！」

クロウド「永遠に・・・赤い部屋の住人の遊び相手になるがいい・・・

」

キィ・・・ボタン

赤いドアは閉まった

クロウド「よかったな田口さん・・・カレーパーティー開けるぜ？」

そのあと・・・田口さんは救急車に運ばれた・・・

～六氷魔法律相談事務所～

ロージー「あいにいつちゃだめなの？」

ムヒョ「くどいぞ、だめだ・・・」

クロウド「いいから昼ごはんの材料買ってきて来い」

ロージー「ぐすん・・・いつてきまーす」

ロージーが扉をひらくと・・・

田口「カレーはいかが？」

ロージー「ムヒョ！クロウド！カレーパーティー開けるよ！」

ムヒョ「うるせえな・・・」

クロウド「わらびもちあったけ？」

カレーは肉がなくてもおいしい（後書き）

クラウド「まあ分かる人にはわかる刑ですね」

天才は恨まれやすい（前書き）

クラウド「梅雨なんて嫌いだ!!」

レイ「いきなりなにいつてんの!？」

クラウド「だって・・ナメクジ出るし・・」

レイ「うわ・・それだけの理由で・・」

クラウド「こっちにとっちや死活問題だよ!」

天才は恨まれやすい

リリリリリリリン・・・リリリリリリリン・・・

夜中の電話は不吉の報せ・・・緊急至急

大体いつも悪い事・・・

ガチャ・・・その電話をとって俺らは・・・ある人物による事件に巻き込まれた・・・

依頼人の名前は白鳥綾しらとりあや

3年間・・・必死の努力で弱冠16歳で天才までといわれるようになったピアノリスト

依頼人によると世界選抜コンクールに優勝氏らその日から夜中の2時きっかりにピアノの音がするらしい・・・

そのピアノとは「STEINWAY・ザ・スター」本人は2000万くらいと言っているが本当だと5000万はする代物だ

ムヒヨの推理によると・・・おそらく依頼人、白鳥綾に嫉妬した怨念の集合体だと思われる・・・

その日呼び出された次の日・・・俺らは依頼人の家に夜中に向かったちなみにこの話はロージーから聞いた・・・

だって俺寝てたから・・・

クラウド「しかしだな・・・」

ロージー「なに？」

クラウド「この変装のセンス・・・どうにかならないか？俺これ脱いでいい？」

ムヒヨ「ヒッ・・・同感だ」

ロージー「何さあ！完璧じゃないか！」

クラウド「おれ光学迷彩持つてるから・・・これ脱ぐわ」

それで俺は光学迷彩に切り替えて家の中に侵入した・・・

クラウド（・・・でもおかしいな・・・怨霊の癖に計画的過ぎる・・・さ

つさと綾を襲えばいいのにしない・・・おそらく・・・今夜は2時には出ない)

予想どおりに3時半くらいに・・・霊が出た・・・が
クロウド「2体とは・・・聞いてないんだけどな！」

ムヒヨ「ヒツヒ！言うの忘れてた！」

クロウド「わらつとる場合か！」

ギツ！！

怨霊は大量の音を脳内に出すが・・・

クロウド「怨霊如きが・・・これなら天界の牢獄の方が・・・つらかつたわ！！」

その時に依頼人の白鳥 綾がピアノを使って霊の音を消して・・・

ムヒヨ「魔法第142条『霊気無断大量放出』の罪により『蠅王の宝箱』の刑に処す・・・」

バクツ！！『蠅王の宝箱』が一体の怨霊を食った

ムヒヨ「お前のように醜い奴は地獄のコレクションに相応しい・・・」

クロウド「あつちも片付いたようだし・・・こつちも決めようか！」

怨霊「ヒシシシシシ・・・！！！！！」

クロウド「赤い部屋の対になる部屋を知ってるかい？」

怨霊「ギシャアアアアアア！！！！！！！」

クロウド「聞く耳も持たないか・・・」

魔法第142条『霊気無断大量放出』の罪により『白い部屋』の刑に処す・・・」

その時に白い扉が表れた バン！

赤い部屋のように大量の手が怨霊を襲う

怨霊「ギ、ギギアアアアアアアアアアア！！！！！！！！！」

クロウド「鬼ごつことかくれんぼどちらを選び右の部屋と左の部屋どちらにする？」

答えは・・・選んでからのお楽しみだ」

ギーー・・・ボタン

こうして事件は解決した・・・が

ムヒョ「ヒッヒ！なんだこのビラは・・・」

クロウド「魔法のマークの白黒が反転してるな」

ロージー「こんなの・・・家では配ってないよ！」

ムヒョ「こんな回りくどい事するのは・・・奴の仕業だろう・・・」

ロージー「やつ？」

ムヒョ「ヒッヒ！それはそうと・・・お前の魔法はなんだ？聞いたことも見たこともないぞ・・・」

クロウド「俺の魔法は・・・一般的にいられていない・・・」

ムヒョ「どういうことだ？」

クロウド「ようするに・・・限りなく禁魔法に近い魔法
ってことだ・・・」

ロージー「それって！！」

クロウド「禁魔法じゃないぞ？ようするに使う錬の量が多すぎる
から・・・使ってないって事」

ムヒョ「ヒッヒ！どのくらい錬の量だ？」

クロウド「・・・魔元帥を5回は呼び出せるくらい」

ムヒョ&ロージー「・・・」

クロウド「・・・とりあえず帰ろうか・・・」

かくして・・・この事件は解決したのであった

天才は恨まれやすい（後書き）

クラウド「疲れた・雨嫌い」

古い物には九十九神が憑きやすい（前書き）

クラウド「サブタイトルは九十九神と書いてつくもがみと読めます」
レイ「・・・妖怪とか詳しいんだね」
クラウド「まあね・・・」

古い物には九十九神が憑きやすい

ムヒヨ「ルールその2『魔法律書には触れてはいけない』」

今なぜこのムヒヨルールを言ったかというと・・

ロージー「魔法律第22条『にらみ』の罪により・・『地獄目潰し』の刑に処す!」

ロージーが魔法律書を使って遊んでるからだ

ムヒヨ「・・・・」ニヤ

クラウド「・・・・」ニヒ

俺たちは笑って

ロ・ジー「ちょ、ムヒヨなんで魔法律書でぶつのさ!あとクラウド君はなにやってんの!?!」

クラウド「ムヒヨ、ペンチ持ってきて!こいつの爪をはぐから!」

ロージー「ちょ、わるかったから!ほかの事にし、骨が複雑骨折するように痛い!」

ムヒヨ「お前のようなグズが魔法律を理解しようなんざ・・100年たっても無理なんだよ!」

ロージー「・・グズ・・・ウワン!!!!ムヒヨとクラウドのバカああ!!!!」ズーン

と捨て台詞をはいてロージーは出て行った・・

クラウド「・・・何食べる?」

ムヒヨ「ステーキ」

クラウド「OK・・・ちょっと待っててねー・・あ、ドンくらい食べる?」

ムヒヨ「・・・500g」

クラウド「ロージーの分が無くなるけどいいか・・勝手に出て行つたし」

ムヒヨ「・・しかしアブねえとこだったぜ・・」

クラウド「そうだね・・」

魔法律書からは煙が出ていた

そのあと数時間後・・・ちなみにムヒヨはベット

ロージー「たっだいっまゝ」

ロージー「ご機嫌で帰ってきた」

ロージー「ふう、重かった・・・ムヒヨ！お土産！こんな可愛いイ
スが五千円ばかり」

仲直りにいいと思って買ってきたんだー」

ムヒヨはベットから出て・・・

ドガッ！ムヒヨはイスを蹴って倒した

ムヒヨ「今すぐ返して来い・・・」

ロージー「な、なんなのさ！」

クロウド「これは返せ・・・それにこんなの買ってる間があったら食
材を買って来い」

ロージー「・・・天才だからって偉そうに！チビの癖に！女顔の癖
に！」

ムヒヨ「なんだと・・・」ピキッ

クロウド「おい・・・なんか言ったか、2級書記官」ブチッ

ロージー「たかが魔法律書が使えるだけのチビと金があるだけの女
顔って言うてるんだよ！！」

ムヒヨ「知ってるか？お前の事をウドの犬木って言うんだってよ！」

クロウド「脳ある鷹は爪を隠すってしてしてるか？お前は実力無いか
ら隠す事も出来ないだろうがな！」

ロージー「そーゆー喋り方がむかつくんだよ！二人とも！人の気も
知らないで！！」

ダダダ！！ボタン！

ロージーは自分の部屋にイスと一緒に閉じこもってしまった・・・
ムヒヨ「・・・面倒なもん持ち込みやがって・・・やばい前回の魔法律
の疲れが・・・」フラッ

クロウド「・・・くそ・・・次使ったら副作用が・・・」フラッ

しかしロージの部屋から・

ロージ「う、うわあああああ!!!!!!」
パチッ

ムヒョ「クソッ! 全く! 世話が焼ける!」

クラウド「ええーい! 仕方が無い!!」

ロージの部屋に入ると・

ロージ「ムヒョ! クロウド!」

ムヒョ「フン! やっぱりそのイスには悪霊が寄生していたか!」

ロージ「き、寄生・・!?」

クラウド「古いものにはよくあるんだ、物によっては数十年、人を
食う好機^{チャンス}とかな!」

ゴボツ! ゴボツ! 悪霊がロージを食おうとする!

ムヒョ「クッ!」ヨロツ

ロージ「前回の魔法律の疲れが!」

クラウド「仕方が無い・・俺がやる!」

ムヒョ「いやいい・・」

クラウド「いや・・ムヒョはやすんでろ・・魔法律第741条『物
体無断寄生』及び『食人未遂』の罪により・・『地獄の家具屋』
の刑に処す」

その時! 店が現れた!

家具屋「アロアエロアアロア（引き取り金額は魂1000個分
です、永久に地獄で支払ってもらいます）」

ガシッ、地獄の家具屋が悪霊をつかむ

家具屋「アロアアロア（ご利用ありがとうございます）」

地獄の家具屋はイスの悪霊を引き取っていった

クラウド「くそっ・・駄目だ錬が!」ボン!

ムヒョ&ロージ「ヘッ?」

クラウド「・・なんかおかしいか? え? (怒)」

二人が驚いたわけは・・

ロージー「だ、だって女の子に・・・」

クラウド（女）「仕方ねえだろ・・・使い切るところなるんだ・・・」
ちなみに今の状態は・・・顔はそのまま・・・声が高くまり胸がFカッ
プくらいある

ムヒヨ「ヒッヒ！副作用ってこのことか？」

クラウド（女）「寝れば治る・・・寝てくるわ・・・」

ロージー「お休みー」

ちなみにこの後、ムヒヨが魔法律書を所有者以外が触ると1分で自
爆する事を話したそうだ

古い物には九十九神が憑きやすい（後書き）

クラウド（女）「どうも・・・」

レイ「いや・・・まだ治ってないんだ・・・」

クラウド（女）「鍊が回復しないと駄目なんだ・・・ちなみにコレ魔力でもおんなじ」

レイ「大変だね・・・」

クラウド（女）「仕方ねえだろ・・・」

霊になっても父親は子が気になる(前書き)

クラウド「ちょっと・・・一巻が見つからないので・・・過程をすっ飛ばします」

霊になっても父親は子が気になる

？「心霊写真だー！」バーン！

？「こらケンジ！」

いきなり入って来たのはケンジと知らない奴、以前看板に石をぶつけたのでケンジをロージが連行後ムヒヨを『タマネギ』と言ったので・・・少し『汚・死・悪・鬼』をしたがその後に神社に行き悪霊を開放、ムヒヨが執行後、たびたび来るようになった。

ちなみにムヒヨルールその3には『依頼人との再会は事件による相談に限り例外的に認める』というものがある。

ちなみに俺の体は戻った

クラウド「・・・すいません、どなたでしょうか？」

？「わたし？竹之内奈々たけのうち（なな）っていうの！」

ロージ「よろしく・・・」

ムヒヨ「っで？用件はなんだ？」

そういうとナナは懐から20枚の写真を取り出した

ケンジ「これ・・・全部心霊写真が見てくれ！」

とりあえず俺らは見だした

ロージ「ムヒヨ、クラウド、どう？」

ムヒヨ&クラウド「・・・」

ケンジ「全部本物だろっ？」

ナナ「心霊写真なんてあるわけないでしょ！」

ムヒヨ「ヒヒッ！ビンゴ！」

クラウド「・・・大当たりだ！」

ナナ「・・・ツハ？」

ムヒヨ「二十枚とも全部・・・」

クラウド「本物だ！しかもすべて同じ霊だ！」

ナナ「そんなこと・・・あるわけないじゃないー！」パンツ

ナナは事務所を出て行ったが・・・

クラウド「霊媒体質・・・だね」

ムヒヨ「ヒツヒ！厄介な事にならなきゃいいんだが・・・」

とるあえず・・・夜ナナの家に直行！

？「シイイイイイ・・・」

霊がナナを襲おうとしてた・・・

ナナ「・・・ツヒツヒ・・・」

ロージー「ナナちゃん！」

ケンジ「ナナ姉！！！」

クラウド「ムヒヨ！」

ムヒヨ「分かつてる・・・魔法律第383条『住居不法進入』及び『
傷害未遂』の罪により・・・『魔鉄兵』の刑に処す！！』　バン！
鉄で出来た兵隊が・・・こちらを向いて砲弾を撃った

クラウド「クソッ！『千火螢の術』！！」

おれはそれを相殺した

ムヒヨ「ヒツヒ・・・ペン持ってたのか・・・」

クラウド「執行に時間がかかるようにね！」

その時に霊がロージーを殴ろうとした

ナナ「そのまま右へ跳んで！！」

ロージー「！」

ナナの掛け声でロージーたちは横へ跳んでナナの部屋へ入った

その瞬間に霊がナナのものを散らかし始めた

ナナ「やめろ！化け物！その棚にはパパとの大事な思い出が詰まっ
てるんだから！！」

しかしナナは弾き飛ばされてしまった

その時悪霊がナナに手を差し伸べた・・・

ナナ「・・・パパ？」

ケンジ「今・・・なんて？」

クラウド「おそらく・・・こいつの罪はただの『無断背後浮遊』だけ
だった」

ムヒヨ「パツと見、敵意に見えたのは気づいて欲しいという叫びだったんだ」

ロージー「・・・じゃあ」

クラウド「・・・つらいだろうな、娘に気づいてもらえないっていうのは」

ナナ「嘘でしょ！？なんかいつてよ！パパなら何で私たちを襲うのよ！」

ムヒヨ「襲っちゃいねえよ・・・俺の魔法陣がオメエに危害を加えると思ったんだろ」

クラウド「霊ってというのは意識がはつきりしてないが大事な事だけは覚えてる」

そのときに悪霊・・・いやナナのパパは思い出の写真を取り出し・・・
ナナのパパ「ア・・・ナ・・・ナ・・・」

ムヒヨ「ヒツヒ・・・悪いが暴れられても困るからな・・・魔法陣第7
1条『無断背後浮遊』の罪により『黄泉渡し』の刑に処す！！

渡し舟に乗って罪をかえりみる！」

ロージー「いくらなんでも地獄送りだなんて！」

クラウド「黄泉渡しも知らんのか！」

黄泉渡しの刑は軽い罪の霊が受ける罰で罪を洗い流したら天国にいく

ちなみにこの後、『証拠は？』とナナがいい取材させられる事になった・・・

ムヒヨ「アホか！」

クラウド「・・・父さん」ボソッ

ロージー「ん？なんかいつた？」

クラウド「・・・なんでもないよ」

クラウドの袖がいつのまにか濡れていた

霊になっても父親は子が気になる（後書き）

クラウド「つ、疲れた・・・」

魔封じの筆は使い勝手がいい(前書き)

クラウド「けっこう・眠い」

魔封じの筆は使い勝手がいい

ロージー side

宅配人「お届け物です」

ロージー「はい、はい」

ロージーは軽く走って荷物をとりに行く

ロージー「ムヒヨは寝てないで出て欲しいよ、クラウドは買出しに
いつてるから無理だけど」

かるく愚痴を言いながらとりに行った

クラウド side

クラウド「いや、こんなところで会うとは奇遇だね」

ナナ「そうだね」

俺は買出しに行った後にナナとあった

クラウド「おっとそろそろ事務所だ」

ナナ「ここの料理おいしいから楽しみなんだよね」

クラウド「そりゃロージーも喜ぶだろうな」

事務所に入ろうとした瞬間

ムヒヨ「3年早い」

ロージー「そ、そんな」

ムヒヨ「まだ『Let's Try』なんか読んでるお子様に受験の資格なんてあるとでも？」

ロージー「で、でもでもムヒヨ」

そっぴいざござしてる瞬間に・・・

カシヨ！

ナナ「いよつす二人とも！！お取り込み中失礼！！」

ロージー「いつのまに・・・？」

クラウド「俺が入れたんだよ・・・はい材料」

ロージー「あ、ありがとう」

クラウド「さてと・・・なんでこうなったんだ？」

ロージ「そ、それは・・・」

クラウド「どうせ協会から魔封じの筆^{ペン}が届いて受験が出来る騒いでムヒヨの眠りを妨げてムヒヨから3年早いといわれて文句を言っ
てあしらわれてたんだろ・・・」

ロージ「・・・全部あたり、超能力者？」

クラウド「違うから」

ナナ「無視しないでよ！せっかく仕事持ってきたのに！」

ペラ、黒い影が写った写真をナナが見せた

ナナ「私はその霊が親子に関係してたらいやだなんて思っ・・・

」

ムヒヨ「これはおめえの依頼か？親子の依頼か？」

ナナ「それがなんだって？」

ムヒヨ「仕事なら依頼もってこい・・・帰れ、こんな写真興味ない」

カチーン

ナナ「悪かったわね！こおんな写真で！！！！さよなら偽善者さん！

！！」

クラウド「俺寝るね・・・」

ロージ「ちよっと！ねえムヒヨいいの？ってコツチも寝てるよ・・・

」

数時間後

ムヒヨ「おい・・・おきろ」

クラウド「ん？」

ムヒヨ「奴が心配だ・・・いくぞ」

クラウド「OK・・・」

この後に歩道橋に行った・・・が

ロージ「うそ！？何で利かないの！？」

クラウド「説明書思い出せ・・・」

ムヒヨ「魔封じの筆^{ペン}の効力は？」

ロージー「書いてスグじゃないと・・・効果がない！」

ロージーは破魔^{はま}の術をくりだしてナナを助けた

ムヒヨ「上出来だ」

ナナ「ムヒヨさん・・・いつ!!」

ナナは床に落ちて変な声を出した

ムヒヨ「今回のお前の勝手な行動はな、ナナを死なすところだったんだぞ？」

クラウド「魔法律は人を救うためにあるんだ・・・肝に銘じておけ草野次郎2級書記官」

ロージー「はい・・・!!六氷執行人・・・鬼神執行人」

ムヒヨ「魔法律第1624条『殺人未遂』の罪により『魔王の鉄槌』の刑に処す」

悪霊「え・・・？」

でっかい鉄槌が悪霊の上に現れる

ムヒヨ「次の一撃で地獄に堕ち」

クラウド「もう一撃で地獄の土となる・・・」

悪霊「やめ・・・」ドン!

悪霊は地獄に行った

翌日・・・ロージーはペンを返そうとしたがムヒヨはロージーの受験に行こうといい

ロージーの受験に行く事になった

魔封じの筆は使い勝手がいい（後書き）

クロウド「・・・あー・・・疲れたー」

さあ・・・死神による怨霊狩りだ（前書き）

「テスト勉強のためにしばらく更新を停止していました
これからも『最強による異次元輪廻』をお願いします」

さあ・・・死神による怨霊狩りだ

ブオン！！壁に魔方陣が現れ俺たちはそこに入ろうとしている

ロージー「いやゝ受けれるなんて夢みたい！」

クラウド「それは合格して『夢みたい！』だろう」

あえて声をロージーに似せて言う

ロージー「僕の声をまねないでよ！？」

ムヒョ「ヒツヒ！とりあえずいくぞ」

にゆう・・・気味悪い音を立てて俺たちは入っていく
通ったらでかい城みたいな建物の前に人がいて・・・

ムニユ

？「Aカップ」

おれの胸をもまれた

クラウド「・・・・・・死ね」

？「ゴゲフ！！」

むかついたので思いっきり鼻を殴ってやった

「鼻には神経が集中しているので殴ったりするのはやめましょう
命に関わる可能性があります。」

ブウウウウウウウウウウ

そのままもってるチェーンソーでぶった切ろうと

ロージー「ストップちよつとまって！？死んじゃうから！絶対死ぬ
から！ていうかドコからチェーンソーが！？」

クラウド「うるさい・・・こいつは生かしておけない、切り刻んでひ
き肉にしてやる」

ニユーン

いきなり魔方陣からナナが現れた

ナナ「す、すごい・・・」

ムヒョ「なんで来てるんだ」

ムニユムニユ

？「AカップとDカップ」

改めてオレとナナの胸まじまじともんだ・・・

5分後

？「・・・・・・・・・・・・・・・・」

クラウド「返事がないただの屍のようだ」

何があったかって？なーに少し『汚・死・悪・鬼』をしただけさ

ロージ「ちょ！？」

ムヒヨ「さーていくか」

ロージ「無視！？無視なの！？」

クラウド「さて死体をどこに捨てる？」

ナナ「犬に食べさせようよ？」

クラウド「ナイスアイディア」

ロージ「誰か救急車ああああ！！！！！！」

？「はっはムヒヨ聞いてないよ・・・こんな可愛いボインちゃんとバ
イオレンスな美人連れてくるなんて、オレは裁判官のヨイチ」

ナナ「なんなのこいつ？」

ムヒヨ「ただのバカだ」

クラウド「オレは男だ・・・ワンモア『汚・死・悪・鬼』？」

ヨイチ「すいませんでしたあああ！！！！！！」

一言いっただけで土下座してくれたよ

その後雑談しながらナナとロージと別れ俺たちは各自拡散した

俺？俺はもちろん

クラウド「ケーキください」

店員A「3万3560円になりまーす」

クラウド「はい、レシートいいんで」

店員A「ありがとうございまーす！」

甘いものを買いまくった

クラウド「やっぱ甘いもん偉大」

と×ゲームを読みながらつぶやいてると・

市民A「きゃあああ！！！！」

市民B「うわああ！！！！」

悪霊が進入してきた

クラウド「・・・侵入させた奴はつと『ラジエルの書』発動」

ラジエルの書とは？『天使ラジエルが宇宙の神秘を解き明かした本である』

ん？何で持つてるかって？もらったんだよ本人から、いやけっこ
う仲いいんだよね

クラウド「フム・・・円宙継まじやうつぐか、あだ名はエンチュー・・・学生時代に

勉強に時間を費やしたが親の死亡により執行人になれず、そのまま
禁魔法律に走る・・・すごい過去だな」

そんなことをしてる間に・・・

ロージ「！クラウド！」

ロージ「会えたな・・・手伝ってやる！」

そして俺らは塔の中に入り・・・

ロージ「魔縛りの術！！」

クラウド「札投げてつけれんのはすごいな？・・・タロット『塔』ザ・タワー」

ロージが札を投げて縛っている間、塔からの雷で霊が何体か消滅
する

クラウド「今回は正位置だ正位置は『崩壊、災害、悲劇』だ、その
通りだったな」

ムヒョ「ヒッヒ・・・気をつけろまだ残ってるぞ・・・」

怨霊「ああ・・・苦しい・・・コレ貰っていい？」

ナナ「きゃあ！！！！」

怨霊の本体が現れた・・・

クラウド「まだ鍊は残ってるな？」

ムヒヨ「当たり前だ・・・魔法律第1742条『大量殺人未遂』及び」

クラウド「『物体無断寄生』の罪により」

ムヒヨ「『魔列車』の刑に処す」

クラウド「『死神の怨霊狩り』の刑に処す」

執行人A「な、なんと」

執行人B「あの『魔列車』に『死神の怨霊狩り』だと？」

執行人A「きよ、強力すぎて高名な執行人でさえ使えないというあの『魔列車』？」

執行人B「魔法律としてはあるが誰もが使えないという・・・あの『死神』？」

ボオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ
ピーヒュルルピーヒュルル

列車の音と・・・笛の音が聞こえる

魔列車は一番前に奇妙な目があるSLの列車だ

死神は血で汚れたマントを羽織り、黒いシルクハットをかぶっている、吹いているのは穴が開いた鎌だ

ヨイチ「・・・この勝負・・・ムヒヨの勝ちだな、だがまた来るんだろ
う？エンチユー」

執行人A「おお！次々と『魔車掌の手』が例をつかんで『死神の鎌』が霊を狩っていく！」

裁判官A「『魔車掌の手』とは・・・？」

裁判官B「魔列車の番人で霊を車内に引きずり込む役目を持つている」

かくしてなんとか怨霊を退治しました。

ちなみにこの後にヨイチがロージの『一級書記官仮免許』を破ろうとしたので・・・

少し『汚・死・悪・鬼』をしました

さあ・・・死神による怨霊狩りだ（後書き）

クラウド「けっこう（自分的には）かけたと思います」

変態は風呂に出没する

ロージー「あ！^{がいろじゅ}街路樹が芽吹いてる！」

チュ、チチチチ

小鳥のさえずりが聞こえるころ・それはやはり

クラウド「春だな・紅茶が美味い」

ズー・紅茶を飲んで呟いた

ロージー「紅茶は関係ないんじゃない」

クラウド「バカかお前は花見をしてる時、いつもより料理は美味く感じる、その理屈だ」

ロージー「まあ・そういうことはおいとして」

クラウド「置くな」

ロージー「やっぱ春と言えば行楽のシーズンーーーー」

ムヒョ「なんだって？」

ロージーの質問にムヒョジャピンを読みながらは少し籠った声で答える

ロージー「なんでもない」

チン・ジリリリリン

電話がかかってきた・

ロージー「はい・・六氷探偵事務所」

若干、元気がない声で電話に出るロージー

電話口「依頼をつつ！！！！頼みたい！！！！」

事務所に全ていきわたるような声が響き渡る

ていつか聞こえてるのだが

電話口「・・・・！！！！」

ロージー「はい」

電話口「・・・・！！」

ロージー「え？ちよつとお待ちください！」

少しトーンが下がった声を聞きムヒョに質問する

ロージー「ムヒヨ・・・出張依頼なんだけど・・・」

ムヒヨ「どこにだ」

ロージー「な、七ヶ瀬温泉なながせおんせんてとこの旅館だって・・・」

ロージーは少しドキドキしながら答えた

クロウド「温泉？」ピクツ

それと反応する人1名

ムヒヨ「・・・しよーがねー行くかつ、春だのなんだのうるせえーしよ」

ロージー「あーー」

ロージー＆ナナ「やったー！！！！」

電話口「・・・!？」

その声を聞いて電話口の人が驚いた

クロウド「ていうかいたんだ・・・ナナ」

ナナ「オンセン、オンセン、エライコツチャ、ヨイヨイ」

ロージー「ナナちゃんも行く？」

という事で着きました、七ヶ瀬温泉

とつてもぼろい建物ですが・・・

受付A「よんたにサマ？先生なら外に出てるよ？」

受付B「先生のファン？」

ロージー「仕事の依頼で・・・」

受付A「まあ待つてる間温泉でもどう？」

ナナ「ハイッ！！」

ムヒヨ「こいつそれだけのために来たな・・・」

クロウド「おまえら・・・そんなに浮かれるな！」

とタオルを肩にかけ、桶の中にバスタオルとシャンプーなどをいれたクロウドが言った

ムヒヨ「オメーが一番浮かれてるよ！！」

クラウド「温泉♪温泉♪」

ロージ「と、とりあえず温泉にいかが?!」
で温泉・・・

ロージ「ああいい湯だね」

クラウド「はあ・・・やつぱ温泉はいいわ・・・」

ロージ「温泉・・・好きなの?」

クラウド「風呂がすきなんだ・・・」

ロージ「ふーん・・・ナナちゃーん、そっちの湯加減はどうー
ー?」

ナナ「さいこー!!」

と隣の女湯からきこえてきた

?「たしかに、その少女は最高かもしれないわ」

歳はいくつだろうか・・・その肌つやからして十台半ば

鎖骨の未完成度を見ると成熟した女からは程遠いが

乳房の発達には目を見張るものがある

そしてなぜか男湯にはきれいな銀髪なのに

胸はペツタンコな痴女が・・・

と変態がメモをしながら呟いていた

ナナ「そうなのよねー・・・けっこう重くて最近肩が・・・つてき
やー!!!!」

クラウド「だれが痴女だ!!男だ俺は!!!!この変態がアアアア!

!!!!」

ガシッ!!

とりあえず縄でぐるぐる巻きにしていた
そして出ると・・・

?「のぞき!?バカな!!アレは観察だ!!このブレイモノ!」

クラウド「男を女に間違える方がブレイモノだ!!!!」

ナナ「カンサツ・・・」

受付A「アラララ・あえたのねその覗き親父が先生よ」

ロージー&ナナ&クラウド「へっ？」

と・・まそのあと話を聞いた・・なんとこのエロ親父が『よんたにあへ四谷阿部
之ゆきだつた、ちなみにこの作家の代表作は『愛の中で』今ベストセラ
ーの時代劇ロマン大作『夜の蝶』の作者だ

え？詳しい？俺は本がけっこう好きだからな

だが四谷がいうにはかいたのは自分じゃないらしく、もう一人の自
分らしいと無駄にかっこつけていつていた

夜の間に知らぬ間に原稿を書いているらしい、最初はなんとも思わ
なかったが日増しに枚数が増え、幽霊に取り付かれているとおもっ
たらしい

そのあと夜に調べて欲しいといわれ夜に書いてる部屋に行った

クラウド「温泉もあるしこんな豪華な食事いいね・・」

ムヒョ「ゲフッ」

ムヒョは食べ過ぎて寝ている

ロージー「四谷先生のはからいらしいよ」

ナナ「いいところもあんのね・・」

ムヒョ「くつたら眠くなつた、隣で寝ているからなんかあつたら起
こせ」

クラウド「わかつた・・さてロージーお膳を返しに行こう」

ロージー「わかつた・・」

ナナ「手伝わなくていい？」

クラウド「大丈夫」

まあ古い旅館だ・・地縛霊だろうとクラウドは考えていた
ロージーはおびえていたが・・

で返し終わったあと・・・事件はおきた

四谷「なんじゃ今日は女子おながおらん・・」

2階で書いているはずの四谷が外から出てきたのだ

ロージー「先生・・・なんでここに？」

四谷「？わしはずつと外へのぞーいや観察に行つてたぞ？」

クロウド「じゃああれは！？急げロージー！」

だだ！！俺たちはいそいで上に上がった・

ナナ「？どうしたの？」

そこには無事ナナがいて中には誰もいなかった

クロウド「ロージー！」

ロージー「ナナちゃんだったらごめんね！魔縛りの術！！！」

ナナ「ひっ！！まさか霊能力者ー！！？」

ポン！

霊「まってくれ！たのむ！堪忍して・・・」ブルブル

四谷「そやつは！？」

いそいで上がってきた四谷がいった

クロウド「地縛霊だろう・・・」

とりあえず話を聞くと・・・こいつは『平田残雪』^{ひらたざんせつ}というらしい

遊んではかりの三文作家でたいした作品をかけぬうちに「結核」にかかったらしい

延命に効果アリといわれるここに訪れたみたいだ

なにもしてない自分を呪つて自殺しようと考えたが同じ患者の『ゆり』といわれる女性に出会い、恋をしたがゆりは先に死んでその執念でペンを持ち書いたが死亡

ていうかこれ全部『夜の蝶』にでてくるんだけど・・・私小説だったんだね

で自分の代りに『夜の蝶』を書く人を探してそこに四谷が現れ書いたらしい

でそのあと四谷が色気が足りないとか行つて風呂場にナナと俺を連れてこうとしたので処刑【ハンク10分の1ver】をしムヒヨがおきてきた

ロージー「思いつてすごいな・・・」

ムヒヨ「だが罪には罰だ！！」

クロウド「すこしまてムヒヨ」

ムヒヨ「ん？なんだ？」

クロウド「考えがある・・・」

そういつておれは残雪にこういつた

クロウド「残雪・・・お前は罰を犯したんだ」

残雪「・・・え？」

クロウド「人に成り代わるといふのはその人の人生をつぶすということだ・・・」

残雪「・・・」

クロウド「だから・・・序文だけ書いて四谷に渡せ・・・」

四谷「・・・むりだ！！私は5年も作品を書いていない・・・5年だ！

私は夜の蝶の大ヒットを全て自分の金にした・・・だが直前でそれが恐くなった！

だから急いで魔法法律家を呼んで・・・お前が長い月日をかけて集めた思いを無駄にしようとしたんだぞ！！

・・・そんなわたしに続きを書く権利など・・・ない・・・」

残雪「最終巻は四谷先生あなたに書いてもらうつもりだった

なぜなら最終巻はあなたにしかかけないからだ

私は・・・あなたに会えてよかった・・・

これが序文です・・・あとはよろしく」

クロウド「・・・ムヒヨ」

ムヒヨ「挨拶は済んだな・・・魔法法律第882条『超長期現世無断

滞在』及び『面相無断転写』の罪により『不帰梟』ふきふくろうの刑に処す」

とつじよ頭が2個ある梟が現れた

不帰梟は残雪の頭をつかみ外に出た

ガラッ！四谷はいきなり窓をあけ残雪に向けて泣きながら言い放った
四谷「オイコラ残雪ッ！！最後の分はこれでいいかあッ！！」

【幸せは夜の蝶のように脆く儚いからこそ】

【この世でただ一つの】

【かけがえのない幸せになる】

残雪「・・・！！！！素晴らしい・・・！！！！」

この事件が解決したあとTVで『夜の蝶』のテーマをこついった
『生きる喜び』・・・と

変態は風呂に出没する（後書き）

クラウド「今回・・・長いと思います」

監獄にいくのって悪い事した気分になるよね（前書き）

クラウド「もうすぐ夏休みが終わりか・・・」

監獄にいくのって悪い事した気分になるよね

ドン！ゴン！

朝早くから物音がする

クラウド「ロージー・・・出て」

ロージー「はい・・・だれだろ、こんな朝早くから・・・」

朝早いため少し寝ぼけているロージーが扉を開けたが誰もいなかった
クラウド「いたずらか・・・」

ドンッ！ドサッ

よく聞いてみるとそれは事務所の本棚から聞こえてきた
ドンゴン！

音はまだ聞こえている

ロージー「起きてムヒヨ・・・！！ムヒヨ・・・！！」

ガン！音はまだ聞こえる、ましてやどんどんひどくなっている
ムヒヨ「ううう」

ロージー「ほ、本棚の後ろになんかいる・・・！！霊！？」

ムヒヨ「タクツ・・・」

少し眠さでフラフラしてるムヒヨは本棚をずらした
そこには・・・

クラウド「魔法陣？」

ロージー「あれ？魔法陣ってダイブ前に消えてーーーー」

ムヒヨ「これはその後俺が・・・」

といいかけている時に魔法陣から『にゅ』と手が現れた
？「とうっ！！！」

ムヒヨ「貼り直したーーーー」

その瞬間、魔法陣から小さい帽子をかぶり袋をもった人が出てきた
そいでもってムヒヨを蹴り飛ばし壁に衝突した

？「ああびつくりした」

ロージー「・・・え？」

ロージはびくりしている

ムヒヨ「びくりしたのは・・・こっちだ、ビココノヤロウ・・・
!」

ロージ「え？」

ビコ「ボクのほうがびくりした・・・!!」

クラウド「はい？」

約2名は話についていけない

ロージ「失礼ですがこちら どなた・・・？」

そういうとビコは名刺をだしてくれた

ビコ「ボクは通称『魔具師のビコ』本名は我孫子 優^{あひこ} 優^{ゆう}

キミの事はかねがね聞いている

ムヒヨとはMLS（魔法律学校）の同期で古い仲だ」

ムヒヨ「フン・・・」

それを聞いて少しムヒヨは面白くなさそうだった

ロージ「はじめまして・・・魔具って言うのは・・・？」

そういう会話をしていると後ろの魔法陣がきえかかっていた

ロージ「あつ、魔法陣が消えちゃうー」

クラウド「魔具の勉強もしろロージ」

そういうとビコは袋をあさり魔法陣を取り出した

ロージ「うわっ！」

ビコ「これは『出張魔法陣シール』これを」

そういうとビコは壁に張り魔法陣を再生させた

ビコ「・・・できた・・・」

ロージ「す、すごい!!」

ビコ「2千円」

ムヒヨ「頼んでないねーヨ」

クラウド「ビコが入ってきたときに落とした本の修理代、突入時ム

ヒヨを蹴った時のムヒヨの治療費、合わせて2千円」

ビコ「ただいい」

ムヒヨ「あたりまえだ」

ロージー（ムヒヨの同級生って変な人が多い・・・ていうかクラウドとビコさんって似てる）

ムヒヨ「まあとりあえず」

クラウド「本題に入ろうよ、魔具師さん」

ムヒヨ「『魔具師が』うごく」と『不吉』がうごく・・・そう相場決まってるんだよ」

ビコ「ムヒヨには隠せないか・・・実は三人に『魔監獄』に来て欲しい」

ビコの話によると『第18魔監獄』・・・ああ魔監獄って言うのは強力な霊が幽閉されている、牢獄の城の事

普通は下っ端は間監獄を知らなくても無理はない

魔法法律界のトップシークレット・・・つまりは汚点だから

執行人の数が足りないから裁ききれないのは幽閉するしかない

魔法法律には4大刑法がある『地獄送り』『浄土行き』『和解』

最後の手段として一時的なフダによる『封印』がある

そこで話はつながりビコのフダが使われている『第18魔監獄』で最近事件が起きた

第一報は『最下層の牢の封印が破られた』という職員の電話

ビコは自分が作れる最強の札を作ったつもりだったらしい

破られるはずが・・・とおもった矢先

届いた第二報は『行方不明者が出た』というものだった

そこで一緒に行って欲しいという事だ

ムヒヨの返答は・・・？

ムヒヨ「メンドーだ行かねエー」と言いたいところだが断ったら寝つきが悪そうだからいつてやる」

OKだった

こうしておれたちは魔監獄に行くことになった

監獄にいくのって悪い事した気分になるよね（後書き）

クラウド「暑いですね・・・」

脱走する奴の罪は重くなる（前書き）

クラウド「歌詞をなんで書いちゃ駄目なんだろう？
かいてもいいじゃん！

じゃあYOUTUBEとかどうなんだよ！！」

脱走する奴の罪は重くなる

おれらは魔監獄についた

行く時にロージーが吐いたりしたが問題なく着いた

進んでいくと一人の女性と二人の男性が見えた

進んでいくと顔が鮮明に見えた

一人は髪が紫で程よく伸び、胸が少し大きく帽子をかぶり、片方の目にメガネらしきものをかけた女性

もう一人は初老の男性でメガネをかけていた

最後の一人は茶色い髪で若い男性だった

たっ！！

それを見た瞬間ビコは女性に向けて走り出した

女性「ちよつとお！！おそいじゃないビコオツ！！」 チュバツ

ビコ「お師匠様あ~~~~~」

女性はビコに向かって何度もキスを繰り返していた

しかもビコの目はハートマークになっていた

女性「そしてーームヒョ」ドムッ

ムヒョ「近寄るなこのキス魔め」

クロウド「同感」

さらにムヒョにキスをしようとしたがムヒョが魔法律書で殴り食い止めた

女性「相変わらずガードが固いのねえ・・・イケズボウヤ~~~~」

ロージー「だっだれこの人・・・？」

ビコ「この人はボクの師匠、カリスマ魔具師の『リオ』こと黒鳥理緒様デス」
くろとりり

リオ「始めまして、ビコがお世話にーあなたはムヒョの助手のロージーさんとクロウドさん？」

リオは俺等に向けていった

ロージー「ハ、ハイ・・・」

クラウド「そうです」

リオ「か、かわいいコらねえ〜一人女の子だけど」
ムヒヨ「きもいババアめ」

ゾオオツ!!

クラウド（今本気で貞操の危機を感じたぞ!?!?でも女で思われ
てれば平気〜）

ロージー「アハハ・・・クラウドは男ですよ?」

クラウド（てめえ余計なことを!?!）

リオ「そうなの・・・ウフフ・・・」

クラウド（こええええええええええ!!!!）

変な雰囲気になったところでビコがさっきのムヒヨの発言に「うい
った

ビコ「キモイだつて!?!自分のほんの作り主にむかつて!!」

リオ「いいのよビコ、ババア以外はあたっているもの・・・」

クラウド「自覚あるなら治してください、変態」

ムヒヨ「んなことよりなんでここにいんだヨ（怒）」

リオ「そんなの決まってるわ」

リオはビコの帽子をひっぱった

リオ「ボクボク言うこのムスメツコが心配できたのよ!」

ビコ「ひゃっ!」

ロージー「おお・・・お・おんなのこお・・・!?!」

ムヒヨ「昔っからあいつはボーシとらねえと判別できないからな」

クラウド「女の息子・・・うお!?!」シュ

俺がこの発言をするとビコがナイフ投げてきやがった・・・

クラウド「とりあえず中はあるぞ・・・邪魔すんなよ内側からフダが
貼ってあるんだろ?がそんなもん最下層の霊に聞くわけねえんだか
らよ」

そういつておれらは監獄守たちに最低限の情報を聞き魔監獄の中に入
った

――

中に入ると螺旋状になっていた

足場は一人ずつ通るのが精一杯だった

通るたびにビコが牢獄のフダを確認した

ちなみに最下層の霊の名前は『顔剥ぎソフィー』

人間の頃『仮面の女』と呼ばれ死後幽霊になり500年間で二千人の人間の顔を剥ぎヨーロッパ中を恐怖に染め上げた最悪の幽霊だ

20年前に協会がやっと捕まえここの最下層に封印したらしい

こんな話をしているとビコが一つの牢獄にフダがないことにつぎづいた

そうすると下からバイオハザードのケルベロスみたいな霊がやってきた

ビコ「霊が外にでているんだ……!!」

ロージー「あ……あれ……は……!!」

クラウド「捨て犬の集合霊『泣き犬』だ」
レインドック

ムヒョ「準備運動しとくか――」

ムヒョが魔法律を発令しようとしたが……

リオ「魔法律の無駄内は駄目よ……!!ビコロージー君にアレを……!!」

リオがとめビコがロージーにフダを渡した

ビコ「このフダを使えば普段より術が教化される……これでまず『
霊化防壁』を張って……」

ロージー「ぼくよりビコさんやリオさんの方が――」

ビコ「僕達、魔具師は魔具は作れても使えないんだ……!!」

普通ならそうだろうな

レインドック「ギイ……!!」

そうしてる間にレインドックが襲ってきた

なんとかロージーが霊化防壁を張ったが……

クラウド（強いフダなはずなのに防壁が弱い！）

ビコ「早く魔縛りの術を！！！」

ロージー「ハイッ！」

だがフダは壊れてしまった

クラウド「仕方がない・・・破魔の術！！」

レインドック「グギイ！！」

あるていど聞いたがまた再生している・・・

こうなったら・・・

クラウド「仕方がない・・・俺が作った中で一番強い札を使うか・・・
破魔の術！！」

使った瞬間レインドックと同じ大きさの破魔の術がでてレインドック

クは消え去った

クラウド「よし」

ビコ「・・・今なんていった？」

クラウド「ん？『破魔の術』だけど？」

リオ「その前よ！」

クラウド「えーと『俺が作った中で一番強い札を使うか』だけど？」

ビコ「なんであなたが・・・魔具を作るの！？」

クラウド「別にいいだろう・・・禁魔法律でもないし・・・」

とりあえず話をばやかして最下層の途中

そうすると話に聞いた当直の『藤原裁判官補佐』の死体があった

ビコ「ごめんなさい・・・ボクの札のせいでー行こう死体の収容は
ソフィーを片付けた後だ」

藤原「嫌だ・・・生きたい・・・オレ・・・は・・・死んだ・・・のか？」

進もうとすると藤原裁判官補佐の死体が動き出した

ロージー「し、死体が・・・！！！」

リオ「霊燐の量が異常に多すぎて死体の霊化が早いのよ！」

クラウド「藤原は・・・悪霊になった！」

ムヒヨ「魔法律第356条『無断変形』の罪により『魔王の矛』の
刑に処す

故意ではないといえ魔法法律家たる者・・悪霊になる事が何を意味するとは言わせんぞ!!」

そして最下層に行ったがソフィーはいなかった

ビコ「これだけ探していないとすると・・『なりかわり』がおきてるかもしれない」

ムヒョ「ソフィーのなりかわりは『完璧』だ、見破るのは難しい」
クラウド「とりあえず上に行こう・・恐らく今井裁判官は生きている!」

今さつき言っている藤原やら藤原はさきに監獄の以上にきづきはさきにはいったものたちだ」

とりあえずうえにいき・・俺は言い放った

クラウド「古谷さんちよつといいかな」

古谷さんは岩本・・ああ最初に説明した若い男性だ

岩本と婚約する事になった若い女性だ

古谷「なに・・?」

おれは魔法法律書を開く

クラウド「魔法法律第98条『なりかわり』の罪により」

ロージー「ちよ!?!なにいつてんの!?!」

岩本「なにするんだ!?!」

クラウド「だまれ・・この程度見破れない奴らは・・・【どけ】
邪魔だ!」

ゾオオオオオオオオオ!!

この一言で全員は縮こまった

恐ろしい恐怖がこのたった二言に詰まっていたからだ

クラウド「『閻魔大王』の刑に処す」

リオ「閻魔大王と契約!?!」

閻魔大王は地下からやってきた

閻魔大王「アルエリオリアルアリア（地獄へ来い、永遠の苦しみを与えてやる）」

古谷「なんで・・なんでばれたの私は可愛くなりたいだけなのにい

いいいい！！！！！！」

苦し紛れに念動力でソフィーは周りのガラスを割りビコにむかってうちだした

リオ「危ないビコ・・・！！」『物体防壁の術』！」

閻魔大王「ルアアアリエルルア（往生際が悪い）」ズズズズズ

ソフィー
古谷「い、いやああああ！！！！！！」

こうして閻魔大王はソフィーを連れて行った

今井裁判官もみつきりこの事件は解決した

だが・・・このあとこの場の全員が驚く事件がこのあとまっていた

脱走する奴の罪は重くなる（後書き）

クラウド「はい・・なんでリオは術が使えたんでしょうね・・
きになるかたは次回！『魂はやすやすと受け渡すな』をご覧ください
い！」

本当のドMは普通にしている（前書き）

クラウド「物語が急変します」

本当のドMは普通にしている

前回、ソフィーを倒しました

そしておれはまだやることもある

クラウド「リオさん」

リオ「なにかしら」

俺は服の中に仕込んだ、縄で・・・

リオ「！！なにを！」ギョッ

ロージー「なにしてるの!？」

リオを縛り上げる、ロージーは無視してな

クラウド「禁魔法家なんてやめなよビコもいるんだからー」

リオ「・・・ばれていたのならしょうがないわ・・・この杖で!」

クラウド「ああ・・・使おうとしたら・・・R-18的なことになるぞ」

リオ「はやめて投降しようかしら・・・」

クラウド「ああそうかこのメス豚がそんなにいじめて欲しいんだな?」

ロージー「・・・あれ?こんな性格だったけクラウド?」

ムヒヨ「・・・」

なぜかここでリオが投降したのにドS精神復活!!

クラウド「ホラ、こんなに踏まれて・・・うれしいだろう?」ガシッ、ガシッ

容赦なく踏みつけてみた・・・楽しい

ビコ「ちよつと!なんでこんなことをするの!・・・師匠が喜ぶはずが・・・」

リオ「ああ!もつと踏んで!踏みつくして!」

全員(リオ&クラウド除く)「え・・・ええええええええええ!!
!!!!!!!!!!!!!!?」

クラウド「飽きてきたな・・・踏むのをやめるか」

リオ「ああ・・・もつと踏んで欲しい!」

クラウド「それなら俺に忠誠を誓え．．やり方はわかるな．．舐めろ」

そういつて俺は足を差し出す

リオ「はい．．きれいにいたします」

ということと俺の靴を舐めてリオは俺に永遠の忠誠を誓いましたとさ
そして事件は解決、俺は事務所に行く途中．．

クラウド「あつ！ごめん俺本屋行くわ」

ロージー「どうしたの？」

クラウド「いや今日は週間ガンマガジンの発売日で．．」

ロージー「そういえばいつもかかってたね．．」

クラウド「じゃあいつてるわ」

本屋に行く途中．．

？「兄さん！」

クラウド「ん？レイじゃないか！この世界に来てたのか！」

レイ「大変だ、天空界が．．乗っ取られた」

クラウド「！本当か！？」

レイ「僕たちを迫害し、牢獄に陥れたアノ神たちが．．クーデターを起こしたんだ！」

クラウド「あのゼウスが負けるわけが．．」

レイ「アテネが、つかまってやられたらしい．．」

クラウド「そうか．．ところでノエルはどうした？」

レイ「！？えーと確か準備をしてあとから合流するって．．」

クラウド「そうかところでこの話をどこで聞いた？」

レイ「牢屋でアテネが教えてくれた」

クラウド「そうか．．じゃあ」

俺は服の中からコルト357を取り出し

クラウド「さっさと死ね」バン！

レイに向けて撃った

胸と腹に命中した

レイ「・・・な・・・に・・・を・・・す・・・る・・・の」

クラウド「敵地をかくぐり牢まで行くのは至難の業、しかも門番、牢番もいるはずだ、それにレイならつれて帰ってくる」

偽レイ「・・・く・・・そ・・・ば・・・れ・・・た・・・か・・・ち・・・く・・・し・・・よ・・・を」バタ

クラウド「・・・天空界の話は本当だろうな・・・あいつらなら先に言ってるだろう・・・俺も行くか」

俺は扉をだし、天空界に向かった

本当のドMは普通にしている（後書き）

クラウド「急展開！次回もよろしく！」

天空界突入作戦開始（前書き）

クラウド「天空界編突入！」

天空界突入作戦開始

ギイイイイ

天空界にいきなり一つの扉が現れた
その中からは・・

クラウド「久しぶりの天空界だな・・・」

クラウドがあらわれた

クラウド「とりあえず・・先に・・ん？」

先に進もうとすると声が聞こえてきた

天空人A「いやーまさかあんな作戦であの二人がつかまるとはな」
クラウド（あの二人？）

天空人B「そうそう！『クラウドは我々に寝返った』っていつて魔法でクラウドに変化した味方を見せたらすぐ降伏したもんな！」
クラウド「そうだな、すぐ降伏したもんな」

天空人A＆B「だよねー！！」

ガシッ

クラウドはいきなり二人の首をつかんで上に上げた

クラウド「なあ・・答えてくれないかな？あの二人、どこにいるんだ？」

天空人A「誰が・・こたえ・・るか」

天空人B「けっ！・・ふざ・・けん・・な」

天空人たちは持ち上げられて苦しいのか途切れ途切れ話す

クラウド「そうか・・じゃあ腕はいらないな」バキッ！

天空人から腕が両方とも外れた

天空人A＆B「ぎゃあああああああ！！！！！！」

クラウド「さて答えてくれないらしいから・・次は足『わかった！話す！牢獄だ！』ありがとう、じゃあ・・・【消えてね】」

クラウドがそう呟くとなぜか天空人は消え去った

クラウド「さて情報を引き出せたり行くか」

そういつて進んでいく

天空人C「いたぞ！侵入者だ！」

天空人D「あいつらを呼んでこい！急げ！」

天空人E「食らえ！ルーン魔法【炎】！」

魔法を天空人が放った

クラウド「その攻撃、痛そうだな」

がクラウドに当たる前に消え去った

天空人E「なに！？」

クラウド「下位ルーン魔法【雷】」

クラウドが唱えると相手に雷が降り注ぐ

天空人CDE「下位じゃない・・・ぞ・・・この・・・威力」

クラウド「さて・・・次は転生者軍団か？」

前をみたら3人の男女がいた・・・ごめん軍団じゃなかった

？「よく分かったな・・・お前を倒せば・・・俺は好きな世界にいけるんだ！俺の名前は佳辰かしん 薩摩さつまだ！」

？「俺は花梨かりん試練しれん、お前を倒して能力を増やす」

？「私は吉野よしの桃子ももこ、早くかつこいい男の子にかこまれて・・・グフフフフ！！」

クラウド（最後危なくないか？）

薩摩「お前の能力はわかったためだかボックスの『大嘘憑き（オールフィクション）』だな！」

試練「残念ながらここにいる全員はそれを含む異常性、過負荷をすべて持っているんだよ？」

桃子「さらに各自神様から好きな能力を貰った！しかも全員不老不死よ！」

クラウド「へー・・・」

薩摩「行くぞ!!」

試練&桃子「斬鉄剣!」

クラウドに向かって無数の剣が降り注ぐ

クラウド「俺の前には壊せない壁【ある】」

その瞬間、クラウドの前に壁が【あった】

薩摩「なんだ!?これは!?!」

試練「こんなものなかったぞ!?!」

クラウド「大嘘憑き?そんなものと一緒にしてもらっちゃ困るんだよ・・・」

桃子「そんなものつてなに!?あんなつよい過負荷を!」

クラウド「あんまりみせたくないんだけどね・・・俺は全てを【ある】ことにしたり【ない】ことにしたりできるんだよ」

薩摩「おいおい・・・別にそんなに強くないじゃねえかよ!」

クラウド「ああ・・・じゃあちよつと見せてあげようか?きみらは動け【ない】」

なぜか言葉を放った瞬間、相手は動けなくなった

桃子「なにこれ!?!」

試練「動けん!」

クラウド「ああ・・・武器がないな・・・じゃあ俺は全ての神具をもつて【いる】」

その瞬間クラウドの周りにいろいろな武器、道具が現れた

例をあげれば・・・ゼウスがアテネに与えた【アイギスの盾】

ヤマタノオロチの尾からでた【天叢雲剣】
あまのむすくものつるぎ

そして【必中の弓】などだ

クラウド「ああじゃあこれでいいか【グングニール】だ、じゃあ・・・シンデネ?」

ザシュ!グングニールで一振りした後は3人の姿はなく灰だけが残っていた

天空界突入作戦開始（後書き）

クラウド「ユニーク・・・1万超えました・・・本当にありがとうございます」

番外編希望の方は感想にお書きください
これからよろしく願います」

死体の有効活用法（前書き）

クラウド「もうすぐで・・・P.Vが・・・1000000越え」

死体の有効活用法

クラウド side

とりあえず今、俺は牢獄に向かつて・・・

天空人A「ギヤアア!!」

下位神A「グワアアアアア!!」

下位神B「やめ・・・ろ・・・」

クラウド「~~~~~~~~」

音楽を聴きながら車に乗って・・・道先の者を轢いています

ん？何で車があるって？そりゃ車が【ある】ことにしてさわったら消滅【する】ようにしてあるからね

ちなみに音楽は「カウンターアイディンティティ」え？規制？曲名だけだから大丈夫

おっ・・・そろそろついたかな

おれはついたようなので車から降りた

クラウド「さて・・・いきますか」

そして俺はドンドンと進んで行く

門番A「見つけたぞ!!」

門番B「すぐにボスにほうこ・・・」

クラウド「神技【墓の中の骨】デッドボーン」

俺がこの業を使うと門番たちは骨になり立ち上がった

クラウド「いいか・・・きさまらは不死だ、城内に入り敵を殲滅しろ」

骨A「ハイ」

骨B「カシコマリマシタ」

そういつて骨たちは城内に入ってしまった

ん？俺の技が最悪すぎるって？これが素だしね・・・俺

うーん・・・さっきの転生者消すのは痛かったな・・・死体を残して殺させればよかった

さて俺もそろそろ行くか

side out

レイside

レイ「まさか・・・兄さんが裏切るとは思わなかった・・・」

ノエル「まあ・・・あいつがあっちに回ったら基本勝ち目がないからな・・・」

本当に・・・お久しぶりです

読者の皆さん・・・え？メタ発言やめろ？いいじゃんすごい久しぶりの登場なんだよ

僕もノエルも・・・

レイ「とりあえず・・・どうします？」

ノエル「スキついて逃げよう・・・遠くへ」

レイ「そうだね・・・これが懸命だね・・・」

しかしあの兄さんが裏切るとは・・・あんまり思わなかった

ていうか兄さんならすぐ天界制圧できるし

・・・本当にあれは兄さんだったのかな？

・・・疑わしくなってきた

side out

クラウドside

さて・・・早く制圧をしよう

できるだけ死体を残さなければ

下位神D「死ね！汚物め！」

クラウド「貴様がな、したいだけ残して【逝け】

下位神D「う！な・・・んだ・・・これ・・・は」

死んだな、さて魂は回収・・・死体は・・・これだな

クラウド「この注射器をと・・・」

死体にさせば・・

死体A「アアアアー・・・」

ゾンビの出来上がりだ・・あとはダメージを食らわせるだけで繁殖だ
手に負えなくなれば・・俺がこのスイッチを押せば死ぬ

完璧だな、すぐ制圧できる

おっとレイたちを襲わないようにしなければ・・

まだまだ・・実験は終わってないんだからな

死体の有効活用法（後書き）

クロウド「・・・はい！今回なんかダークな部分がありますが・・・
無視で！」

牢獄の中での取引（前書き）

クラウド「・・・今日から三連休だいつ！！！」

牢獄の中での取引

レイside

僕たちが捕まっている牢屋に一人の神がやってきた

もちろん・僕たちを捕獲を命令した神だ

？「どーも鬼神 零君・・いやハンギル・レインベルと呼んだほうがいいかな？」

レイ「いやいや・・そっちの名前で呼ばれるのは久しぶりだね」

？「そうかね・・おっと自己紹介が遅れた、私はクリスト・キルアだ」

レイ「そーかい・・でどんな用件？」

ノエル「早く言ってくんないかな？」

怪しい事この上ない・・何者だ？

キルア「なーにレインベル君、簡単さ味方してもらいたいのさ君に」

レイ「嫌だね・・それに今はレイだし、兄さんと戦いたくない」

さっきの話は全部うそだろう・・まったくだまされたのが恥ずかしい

キルア「兄さん？ああ、寝返ったアイツの事かね、なぜお前がアイツと戦うんだ、あいつは味方だぞ？」

レイ「・・味方しろ、ということは侵入者が来たと言う事、しかも一般兵じゃ役にたたない、だから考えた・・侵入者は・・・兄さんだ」

キルア「ククツ・・そこまでわかっていたのか・・」

やはりか・・クソツこんなことにひっかかるとは情けない！！

レイ「なにかおかしい？とにかくあんたには協力しない」

キルア「しかし・・兄さんとは・・・・お前はあいつと血はつながっていないだろう？」

レイ「それでも・・兄さんは・・僕の兄さんだ、未来もない暗い牢獄から助けてくれた」

血はつながってなくても・・あの人は僕の兄さんなんだ！

キルア「そこまでか・・・仕方がない」
やつと諦めた・・・

キルア「これは使いたくなかったのだが・・・」ブスッ
瞬間僕の首に注射器が刺さった

ノエル「おい！レイに何するんだ！」

キルア「黙れ・・・寝てろ」

そういつて・・・ノエルは薬をかがされ眠ってしまった
だめだ・・・もう意識が・・・

レイ「ち・・・く・・・しょ・・・」

その言葉を最後に僕の意識は閉じた

side out

クラウドside

俺は今牢獄にいるが・・・

クラウド「・・・ノエル？」

ノエル「しかないなかった

クラウド「おい起きろ！！」

ノエル「う・・・クラウドか！レイはどこだ！？」

クラウド「こつちがレイがどこいるか聞きたい！どこだ！」

ノエル「わからない・・・」

クラウド「とりあえず・・・一回、お前をおれの【世界】にいれる！」

ノエル「なんでだ！？俺は戦力に！」

クラウド「なにか・・・あつてからじゃ遅いんだ」

これは本当だ

少し怪我をされても困る・・・

しかも相手は神、天使だ、いくらノエルが転生者だとしても・・・中
級天使が限界だ

ノエル「・・・！！わかった・・・」

クラウド「じゃあはいってろ」

とりあえずノエルをおれの【世界】にいった
ここらへんはもう俺のゾンビ軍団で制圧済みだ
早く先に進まなければ

こうしてどんどん進んでいくと大きな広間があつた
そこには・・・

レイ「やあ・・・兄さん・・・早速だけど・・・死んで？」
レイがいた

牢獄の中での取引（後書き）

クラウド「どーも最近胃薬を頻繁に使うようになったクラウドです
この小説ももうすぐ40話ありますがとろろございます」

身内の相手をするのはとても辛い（前書き）

クラウド「すいません・・中間テストの1週間前だったんでパソコンにさわらず更新もおくれてしまいました」

身内の相手をするのはとても辛い

クラウド side

今俺はなぜかレイと戦うはめになっている

レイ「なに・・考え事してんだ？」

クラウド「クッ！」

こうやって考え事してるのもけっこうつらい

口調も変わってることから・・洗脳もしくは催眠の類

だが催眠、洗脳どちらもすぐできるものではない

脳というのは簡単に見えて複雑だ

思考、感情、行動これら全ては脳が作り出してる

そこにむりやり人による洗脳、催眠は滅多なことではうまくいくようなことではない

・・ということとは薬か！

クラウド「薬の効力をなか・・」

ここでおれは気づいた

この場合だとレイの記憶が残ってしまうのでは？

俺の能力を身内にはなるべく明かしたくない

・・なんにせよ、世の理に反するからな

クラウド「・・だったら中位ルーン魔法【天使の息吹】」

これは相手の動きを一時的に止めるものだ

レイ「こんなものが俺に効くとしても？お返した最上位神級技」

あれはまずい！

レイ「死ね【輪廻の死（チェインデッド）】」

どすぐらい死神が複数現れる

クラウド「実験中だったんだが・・！」

仕方なく俺は開発中のアイテムを使った

レイ「この技の効力は知ってるな？絶対にゼウスだろうと死ぬ・・

さあやれ！」

クラウド「機能しろよ！」

どすぐろい死神が俺を貫通し・・・俺は死んだ

side out

レイside

俺の前には死体になったクラウドがいる

レイ「呆気ねえな・・・さて戻るか」

おれは死んだクラウドに背を向け立ち去ろうとした

クラウド「・・・捕獲術式開始」

レイ「なに!？」

後ろを向くと殺したはずのクラウドが立っていた

side out

クラウドside

一か八かだったけど・・・発動してよかった！

レイ「貴様・・・なぜ生きている！」

クラウド「開発中の・・・道具を使ったんだ」

おれはもっていた結晶を取り出した

レイ「なんだ？それは？」

クラウド「・・・人間はいや全ての生物は死んだら天界におくられる」

レイ「そんなもんわかってる」

よし！食いついた！

あとは話を延ばせば！

クラウド「死んだ場合、同じ世界に生き返るはほぼ不可能だ・・・」

レイ「んなもんわかってるつつてんだよ！早く本題に入れ！」

あとちょっとだ

あと少し時間を稼げれば・・・！

クラウド「要するに・・・だ、一定時間死んでまた生き返るといいう道具を作った」

レイ「それが・・・」

クラウド「そう・・・それがこの【一時の死亡時間】だ」

よし完成だ！

レイ「へえ・・・じゃあもう一回殺してやるよ！」

クラウド「そりゃ無理だ、もう勝負はついている」

その瞬間、大量の鎖がレイを捕獲した

side out

レイside

レイ「なんだこれは・・・！？」

今俺には大量の鎖がまきついていて

クラウド「俺は死んで復活した瞬間に捕獲術式を編みこんでいた」

あいつは俺の前に立って話していた

クラウド「そしておれが死んで生き返ったことを説明して時間を稼いだ」

あの時か・・・！くそっ！生き返った瞬間殺しておけばよかった！

クラウド「そして話し終わった瞬間に術式は完成した

さて・・・お前を治さないとな」

レイ「ケツ！俺はこれが『パンツ』と・・・だ」

？「役に立たない駒だな・・・！まあ暇つぶしにはなったか？」

上空に俺に薬をのませた野郎が・・・

だめ・・・か、死ぬのか・・・こんな人生か

レイ「さらばじんせ・・・い」

この言葉を最後に俺は・・・僕は意識を離れた

身内の相手をするのはとても辛い（後書き）

クラウド「はい・・・どうもレイ死亡ですね、最後少し暗いですが・・・まあクライマックスってことで・・・次の話がさらに次の話でこのパートは終わりになります」

身内を傷つけたものへの怒りは果てしなく高い（前書き）

クラウド「どーも・・・中間テストがひどく悪く落ち込んでいる・・・
クラウドです・・・それでは・・・どぞ」

身内を傷つけたものへの怒りは果てしなく高い

クラウド side

俺の前には信じられない光景が目に入っていた

クラウド「・・・レイ？」

そこには・・・頭から血を流しているレイが倒れていた

クラウド「おい・・・嘘だろ？起きろよ・・・レイ!!」

何度起こしてもレイは起きなかった

何度ゆらしてもレイは起きなかった

何度タイテモレイは起きなかった

何度サシテモレイハオキナかった

ナンドウツテモレイハオキナカタ

キルア「ツハ！暇つぶしにはなったか・・・さて次は君の番だ」

目の前にはレイを殺したやつがいた

クラウド「・・・なんでレイをコロシタ？」

キルア「ツハ！そんなもの決まってるだろ・・・役に立たなかったか

らだよ！」

そんな・・・そんな理由でか・・・もういいよな・・・父さん

回想

父さん「いいかクラウド！」

クラウド「うん！なーに？」

父さん「お前にはまだわからないかもしれないけどな・・・」

クラウド「はやくはなして！」

父さん「・・・もしお前の大切なものが傷つかされたりしたら・・・理性なんて気にするな、その相手をおもいきりぶつとばしてやれ！」

クラウド「うん！わかった！もしおとうさんとおかあさんがけがしそうになったらたすけてあげる！」

父さん「ハハハハ！それでも父さん達は強いんだぞ？」

回想終了

クラウド【さあ創めようか】【一方的な虐殺をね】

この瞬間場の空気が変わった

・・全てを混沌に巻き込むように

クラウドside out

キルアside

ゾワッ！

キルの背筋に絶対零度の冷たさがはしった

キルア「なんだそれは・・・！」

それは明らかに・・・通常の神がもつていい力を超えていた

キルア「天使・・・いや神でもそんな力はもってないぞ！」

クラウド【きまっている】【俺は神じゃないんだ】【負から生まれ
迫害された】【ただの混沌のものさ】

この言葉ひとつひとつにおぞましいものなにかがくわえられていた
やられる・・・！

本能的にキルアはさとった

『勝てる相手ではない』・・・と

キルア「君との勝負はお預けにしよう！」

キルアは羽を出し逃げ出そうした

クラウド【あつれー？】【逃げられると思ったの？】【甘いよね？】

その瞬間キルアの羽はなかったことのように消えた

キルア「なんだと！？おまえの能力は口に出さなければならぬの
では・・・！」

キルアはあせっていた・・・予想外のことがつぎつぎと起きることで

クラウド【だれが言葉に出さないといけないっていった？】【そんなことあるわけないじゃないか】【別に言葉に出さなくても大丈夫だよ？】

キルア「ツク・・・！！」

クラウド【じゃあ言葉で言ってあげるよ】【あんたはコウノトリにつかまれる】【そしてそのあとX型の磔はりつけにさらされ】【ラックにかけられる】

ちなみにコウノトリ、ラックは昔の拷問に使われた道具、磔はそのまま

ほかには親指絞め機、鉄の処女アイアンメイデンなどがある

キルア「グアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア！！！！！！

！！！！」

キルアの悲鳴が響き渡る

クラウド【んー】【じゃあ終わりにしようか】【あんたは永遠にしねず異空間にとじこまれる】【さらに身動きもとれず】【たえず激痛が体を走る】

その瞬間キルアは消えた

キルア side out

クラウド side

ふう・・・つかれた

クラウド「さて・・・レイをいきかえらせなければ」

これは・・・禁術だ、つかえばただではすまされない

クラウド「・・・いくぞ【レイは死んでいなかった】」

そしてまばゆい光が周りをおおった

身内を傷つけたものへの怒りは果てしなく高い（後書き）

クラウド「えーと【】は球磨川のさらに怖いverになっております」

後かたづけ、そして能力のバレ（前書き）

クラウド「後書きでアンケートがあるので・・・」

後かたづけ、そして能力のバレ

クラウド side

クラウド「生き返ったか・・・」

レイ「えっ・・・？僕・・・死んだんじゃ？」

レイは生き返っていた

クラウド「よかったな・・・生き返って・・・」

レイを抱きしめようとするが・・・できない

それに・・・

クラウド「レイ・・・どこにいるんだ？声は聞こえるんだが」

レイ「・・・兄さん・・・腕は？」

どうやら俺の腕はないようだ

だが・・・

クラウド「おい・・・もう夜になったか？何にも見えない」

レイ「兄さん・・・目も見えないんだね」

目も見えないらしい

まあ能力を使えばいいんだが・・・ばれるなどうしよう

レイ「能力は使えないの？」

クラウド「！？お前・・・知ってたのか？」

レイ「うん・・・ごめん黙ってた・・・」

クラウド「・・・この通りおれは化け物だ・・・それでも・・・」

レイ「兄さんは兄さんだよ・・・僕を生き返らしてくれた」

クラウド「・・・ありがとうな」

ここで俺は能力を使おうとする

クラウド「だめだ、能力が使えん」

レイ「・・・え？」

できない！まずい！どうする・・・あ！あれがあつた

クラウド「すまん・・・おれのポケットから青色の液体がはいってる小瓶をとりだしてくれ」

レイ「えつと・・・これ？」

クラウド「いや目が見えないからわからんがそれだろう・・・飲ましてくれ」

レイは俺に万が一に備えて作った薬を飲ませてくれた

クラウド「よし！目も見えるし腕も動く！さらに・・・能力も使えるぜ！」

レイ「よかったね！！」

クラウド「さて・・・処理をしなきゃな」

この後はいろいろあった

まず主神たちの開放そして反乱を起こしたやつ処罰そして天空界の修復だ

反乱により天使が減ったため、俺まで仕事に駆り出されるはめになった・・・チクソウ

ん？あとうれしい事があった・・・なんと！両親が生きてたんだ！両親たちはいやな予感がしてダミー作って下界に降りて逃げていたらしい

よかった・・・本当によかった・・・

ああ・・・それとゼウスとアテネが謝って来た

『君を疑って悪かった』『本当にごめんなさい・・・』だそうだ
ちなみに左がゼウスで右がアテネだ

・・・なぜこんなことはなしてるかって？

それはだな・・・

？「おい・・・ここはどこだ？」

転生課の奴らがミスって人間殺しちゃったからだよ！

クラウド「ああーつとさ、君死んだ」

？「はい！？」

クラウド「いやホントごめんね？ちよつといまさゴタゴタして人手が足りなくてさ」

？「いやそんなこといわれても・・・どうしてくれるんだよ！14で死ぬなんてあんまりだ！」

目の前の少年はo r zの体制になっている

クラウド「それでさー、選んで・・・つーか選べ」

？「そつちがミスったのになんで命令口調なんだよ！？」

クラウド「こつちだつて忙しい中、人員さきたくねーんだよ・・・ふざけんなよ！お前！」

？「なんで俺のせいになつてゐるんだ！？」

クラウド「さて・・・じゃあ1、そのまま消滅する 2、地獄に行く

3、冥界に行く 4、このまま拷問されるどれがいい？」

？「ろくな選択がねえ！？」

クラウド「そして隠しコマンド！」

？「まさかの！？」

クラウド「まずを押して□を押して M E G H E N とパスワードを入力するんだ！」

？「ラチエット&クランク3のVコミックの裏技じゃねえか！」

あ、知ってたんだ・・・まあいいや

クラウド「5、転生する」

？「それ！それで！」

クラウド「えーとチートつける？」

？「つけるけど・・・制限は？」

クラウド「基本なし」

？「じゃあ・・・不老不死にしてくれ！」

クラウド「はい、あとは？」

ぶっちゃけこういうのって・・・なんでこんなことするのかわからん、おれだったら全ての情報を選ぶね、脅せるし、自由に世界を操れるぜ？武力より知力だろ

？「あとB L E A C Hの全部の斬魄刀とN A R U T Oの全部の術にワンピースの技全てと魔力と気を無限にして俺の顔をイケメンにして目の色は青にしてくれ！」

頼みすぎだろ・・・まあいいけどさ

クロウド「生きたい世界は？」

？「もちろん・・・リリカルなのはだ！」

うわ・・・なんでそんな世界だ？もつと有意義なところあるだろう・
・植木の法則とかさ・・・こっちのほうがかくだらないか？

クロウド「じゃあ・・・ちよつとまてよ」

？「・・・すまない・・・おれの見間違いか・・・あきらかに拷問用具
にしか見えないものがあるんだけど・・・」

いまおれの前には鉄の処女アイアンメイデンがある・・・すなわち

クロウド「入れ・・・多少痛いが気にするな」

？「きにするわ！！」

クロウド「つべこべ言わずはいれ！」

おれはそのまま目の前の少年を蹴り鉄の処女にいれてしめた

『ギャアアアアア！！』とか『いてえええ！！』とか聞こえるが気にしない

目の前に赤い液体が流れているが気にしない

さて・・・ゼウスに『使えそうな人間を天使にしてこき使おう』って
という作戦を伝えてこよう

・・・途中でアテネに女物の服を着せられないよう気をつけよう

後かたづけ、そして能力のバレ（後書き）

クラウド「作者はリリカルなのは・・・だっけ？は世界観も知らない
のでこういう話かわからないので反対意見をかけなかった・・・
まあそれはそうとして次はどの世界にいくか？アンケートです」

- 1、ハリーポッター
- 2、バカとテストと召喚獣
- 3、魔人探偵脳噛ネウロ
- 4、その他

なお、おれがまったく知らないのは除外しますのであしからず

騒がしい一日（前書き）

クラウド「3連休はたのしいな〜」

騒がしい一日

今日は私クロウドの一日をご紹介します

11:00 起床

クロウド「よく寝たな・・・でもまだ眠い」

しかし朝だ・・・ん？そこ！11時は朝じゃないって？

12時までは朝だよ！

11:30 食事

クロウド「えーと玉子焼きと・・・味噌汁におつ鰯^{アジ}があつたな、焼くか」

こうして俺は朝飯を作り食べる

ん？レイ？今は別の家で暮らしてるよ

12:30 外出

クロウド「今日は・・・ゲーセンでいくか」

ということでゲーセンに

12:33 アテネに追いかける

アテネ「ちよつとクロウド！この服を着てみない！？」

クロウド「誰がメイド服なんて着るか！！！」

やあ読者の皆さん、今現在全力疾走中ですよ・・・ええ

アテネ「じゃあこれは！？」

クロウド「セーラー服じゃねえか！誰か助けてくれ！！」

12:45 ゲーセンに避難

クロウド「た、助かった・・・」

危なかった・・・あとちよつとで俺の貞操・・・っていうわけじゃないな

プライドが傷つけられるとこだった・・・
さて何して遊ぼう？

12:50 ゲーセンにて無双
クラウド「6-1だな、」

おつすオラクラウド、今競馬のメダルゲームやってるんだけど・
クラウド「お、あたった・・・」

あたりすぎてやばい・・・今1000枚はあるんじゃないか？
人からもらった1枚でここまで増えるとは・・・

15:00 喫茶店

ふう適当な店に入ったが・・・

店員A「注文は？」

態度でけえな・・・よし

クラウド「ロイヤルミルクティーショートケーキモンブランチョコ
レートケーキドーナツコーヒーを3つずつにこの軽食セットを2つ
とおもったがやっぱり1つで砂糖は多めでミルクは少なめと思った
が主であとやっぱり追加でドーナツを3個から2個にしてモンブラ
ンをとりけしてくれ」

店員A「・・・はい？」

よし早口で息継ぎなしで言い切ったからわからなかったみたいだな
店員A「もう一回言ってくれ」

しかたない・・・まだ態度がでかい・・・

クラウド「じゃあもう一回、ロイヤルミルクティーティラミスショ
ートケーキチョコレートケーキを3つずつで軽食セットを1つにし
ようかとおもったが頼むのをやめてキャンセルでさらにさっきド
ーナツを2個といったがやはり1つにして砂糖は多めだったが砂糖は
普通でミルクは多めじゃなくて少なめにやっぱりモンブランを2つ
にしてロイヤルミルクティーじゃなくてただのミルクティーにして
レモンはいれないでさらにやっぱりオレンジジュースを頼もうと思

ったがこれ以上無理なのでなしで」

店員A「わかった」

これで違う注文着たらこいつ一生フリーター生活送ってもらおう

16:00 会社で仕事

あの後店員が間違った注文を教えていたので富士の樹海に送っておい

いた

さて・・・

クロウド「優秀な部下をもって幸せだな俺は」
?「なにいつてるんですか、あなたがいない間にたまった仕事はあるんですからやってください」

クロウド「勘弁してくれミカエル・・・秘書の仕事に熱心なのはいいが俺に仕事をおしつけないでくれ」

ミカエル「全部あなたがやってない書類ですが」

なんてやつだ、16歳の立派な青年にこんなことをさせるきか

まあこの会社立ち上げたのは俺だけど（笑）

クロウド「えーでもー」

ミカエル「・・・おわったら菊屋のシュークリームを・・・」

クロウド「やります」

あそこのシュークリームうまいんだよね

ミカエル「急げ！社長が本気になったぞ！普通だったら菊屋まで片道30分かかるが往復10分にしろ！それまでにとどかなかったら我々の今月の給料は・・・10万だ！」

社員たち「いそげええええ！！普段40万くらいもらってたのにそんなに減らされてたまるかああ！！！！！」

さて早く終わらせて食うぞ！！

17:00 交渉

シュークリームうまかった！

さて今日は・・・社と取引か

クラウド「ということでしょうか？我々の傘下に入るか・・・
破産して何もかも失うか・・・」

社長「クッ！」

クラウド「まあプライドだけで飯は食べれませんよ？・・・まああなたの経営方法じゃ・・・ねえ？」

この社長・・・いわゆる2世政治だ
遊んばかりで会社の金を使い込みあげく経営破綻になりそうだ
まだこっちの会社が小さいころ、何度この会社に金を取られたか
社長「ふざけるな！私の経営方法は・・・！」
クラウド「だまってください豚が」

19：00 夕食

あの社長粘りやがつて・・・

クラウド「ミカエル・・・久しぶりに閻魔誘って食べに行かないか？」

ミカエル「いいですね、電話して食べましょう」
閻魔大変だもんな・・・いろいろと

22：00 帰宅

クラウド「ただいまー」

つっても誰もいないんだが・・・しかし閻魔の愚痴が長かったな
相当苦勞してるみたいだし今度疲勞回復薬でも送ろう

23：00 就寝

クラウド「さて寝るか」

今日も有意義な一日だったな

騒がしい一日（後書き）

クラウド「眠い・・・」

転生までの準備（前書き）

クラウド「次回で次の世界に行きますので、アンケートはそれまでに締め切ります」

転生までの準備

どーもクラウドですよー

ええ？なんでこんなことしてるかつて？

前々回とおなじ・・・現実逃避だよ！

クラウド「はい内定！次！」

会社の面接だよ・・・なんで俺（社長）が借り出されなきゃならないんだ！？

しかもこのあと人間から天使になるかのの面接もあるんだぞ！？

面接者B「この会社に志望した理由は・・・」

飽きた・・・

・・・一時間後

クラウド「終わった・・・」

ミカエル「お疲れです・・・」

ミカエルが紅茶を出してくれた・・・

さすがわかってるう！

クラウド「鬼とかあたらしくいれちゃだめかな？」

ミカエル「もうあまるほどいれてるでしょう・・・」

そう俺は天空界、地獄、冥界どの世界のやつも入れている

なんでかつて？社員が足りないし、どんなやつがどんな才能もってるかわからないだろう？

ミカエル「しかしたった3ヶ月でここまで大きくするとは・・・」

クラウド「ちょうど1億儲かったからな、暇つぶしでといたので」

ミカエル「リーマン予想を説くのに暇つぶして・・・」

あれ簡単だったなうん、

クラウド「さてしかしつかれたな・・・」

ミカエル「休暇でもとったらどうです？」

クラウド「そうするか・・・ミカエルも来ないか？」

ミカエル「そうですね・・・うちの社員はよくやってくれますし大丈夫

夫でしょう、どこに行きます?」

クラウド「それは・・・適当だな」

選ぶのだるいし

ミカエル「いいんですかそれで!？」

クラウド「いいんだよ・・・じゃあ明日13時に集合な」

ミカエル「わかりました」

クラウド「・・・っとレイも来るかもしれないから」

ミカエル「・・・さて化粧していかなきゃな!」

ちなみにミカエルは女だぞ

えっ? 神話じゃ男だろって? そんなの人間が勝手に誤解しただけ・・・
まったく・・・ジャンヌ・ダルクに守護を与えたのは俺なのに・・・
まああいつらならお似合いカップルだろう

そして当日

ちなみにレイはさそつたらきた・・・

ついでに誘ってないのにアテネも来た・・・なぜだ!?

クラウド「とりあえず行くよ!!」

全員「オーーーーー!!」

こうして俺らは旅立ちました

転生までの準備（後書き）

クラウド「今回短くすいません・・・」

この小説って学校いくことがおおくない？ b y l e i (前書き)

クラウド「転生先がきまりましたー」

この小説って学校いくことがおおくない？ b y レイ

問題

『歴史上で拷問好きな人物を答えなさい』

姫路瑞希の答え

『ヴラド3世』

教師のコメント

正解です。ヴラド3世はのちのドラキュラのモデルになっています

吉井明久&土屋康太&坂本雄二の答え

『鬼神蔵人』

教師のコメント

だれがクラスの人物を答えなさいといいました
それに鬼神君はそんなことに興味は

鬼神蔵人の答え

『ヴラド3世、豊臣秀吉、織田信長、だっき旦己、ジル・ド・レ、なお織田信長は短気で有名である茶坊主が織田信長怒らせ、縁の下に隠れたが剣で押し切ってきたという話が残っている、その剣を押し切り長谷部はせべといい現在は国宝に指定されている、さらにいえば豊臣秀吉はとらえた女の指を一日1本きりおとしその後

教師のコメント

訂正します、あなたはかなり興味があるようですね

ハロー、クラウドだよ！

早くも転生して学校に通って2年目だよ！

会社もこつちでつくつたよ！便利だから！

え、どこの世界かって？ヒント！

・戦争ありな学園

・A～Fまでクラスがあり成績順

・学校に鉄人と柳婆がいる

もうわかるよね♪ていうか最初にバカテストあるし

クラウド「ということではようございます西村・・・いえマグマ大使」

？「誰がマグマ大使だ！？しかも古いおい！」

ということ・・・ここはバカとテストと召還獣の世界だ

ちなみにまえにいるにはトライアスロンが趣味のマグマ大使、通

称西村宗一先生だ」

西村「名前と通称が逆なんだが」

クラウド「声に出てましたかアトム先生」

西村「なぜ手塚治虫ばかりなんだ！？」

クラウド「じゃあ鉄人」

西村「それは俺が学校中で言われてる言葉だよな」

クラウド「じゃあ28号先生」

西村「かえればという問題ではない！！・・・まったく、おまえに

はいくら教育しても足らんな・・・」

クラウド「受けたことがないんですけど」

西村「全部逃げてるからなお前は！！」

俺はだるいからな逃げてるんだ♪

西村「ホレ、お前の幼馴染は全員Aクラスだぞ・・・まったくなんでお前だけ頭が悪いんだ」

雄二「わかりました」

そして雄二は教壇に立つと・・・Fクラスを見回し・・・

雄二「Fクラス代表の坂本雄二だ、俺のことは代表でも坂本でも好きないように呼んでくれ」

クラウド「じゃあ霧島」

雄二「なんでそれをおまえが知っている!？」

クラウド「クラウドの情報は世界一いい!!」

雄二「ジョジョか!!・・・まあいい・・・みんなに一つ聞きたい。周りを見渡してこのクラスの設備を確認してくれ」

腐った畳に綿が入ってない座布団、足の折れたちゃぶ台に割れた窓・・・たしか自分でもってきていいんだよね？

明日もってこよう

雄二「Aクラスは冷暖房完備の上に座席はリクライニングシートのようなが・・・不満はないか？」

Fクラス全員（クラウド除く）「おおありじゃあああ!!!!」

クラウド「勉強しないのが悪い気がするんだが」

2・F魂の叫びであった

雄二「だろう？俺だってこの現状は大いに不満だ」

F「いくら学費が安いからと言ってこの設備はあんまりだ」

F「そもそもAクラスだって同じ学費だろ？あまりに差が大きすぎる」

雄二「みんなの意見はもつともだ。そこで代表としての提案だが・・・FクラスはAクラスに試験召喚戦争を仕掛けようと思う」

そう言つて雄二は戦争の引き金を引いた。

この小説って学校いくことがおおくない？ b y l e i (後書き)

クラウド「はいバカとテストと召還獣ですね・・最初はオリジナルの問題ですけど・・今回はいきなり死亡して移動とかできないんで長くなると思います」

戦争は第3者には利益が多い(前書き)

クラウド「今日2連続更新だぜ!」

戦争は第3者には利益が多い

バカテスト 国語 第一問

問 『調理の為に火にかける鍋を製作する際、重量が軽いのでマグネシウムを材料に選んだのだが、調理を始めると問題が発生した。この時の問題点とマグネシウムの代わりに用いるべき金属合金の例をひとつ挙げなさい。』

姫路瑞希の答え

『問題点：マグネシウムは炎にかけると激しく酸素と反応する為危険であるという点』

合金の例：ジェラルミン』

教師のコメント

正解です。合金なので『鉄』では駄目という引っ掛け問題なのですが、姫路さんは引っかかりませんでしたね

土屋康太の答え

『問題点：ガス代を払っていなかったこと』

教師のコメント

そこは問題じゃありません。

吉井明久の答え

『合金の例：未来合金（↑すごく強い）』

教師のコメント

すごく強いといわれても。

鬼神蔵人の答え

『問題点：そもそもマグネシウムは炎にかけると危険だし加工するが大変だ、軽いだからといって鍋を作るときにマグネシウムを選んだやつの頭がバーサク状態になってる、そもそも鍋がほしいなら市販の鍋を買いえばいいじゃないか
合金の例：スーパージェラルミン』

教師のコメント

問題のすべてを否定しないでください、それにスーパージェラルミンなんてマニアックなものよく出してきましたね

バカテスト 第二問

問 以下の意味を持つことわざを答えなさい。

- 『(1) 得意なことでも失敗してしまうこと』
- 『(2) 悪いことがあった上に更に悪いことが起きる喩え』

姫路瑞希の答え

- 『(1) 弘法にも筆の誤り』
- 『(2) 泣きつ面に蜂』

教師のコメント

正解です。他にも(1)なら『河童の川流れ』や『猿も木から落ちる』、(2)なら『踏んだり蹴ったり』や『弱り目に祟り目』などがありますね。

土屋康太の答え

『（１）弘法の川流れ』

教師のコメント

シユールな光景ですね。

吉井明久の答え

『（２）泣きつ面蹴つたり』

教師のコメント

君は鬼ですか。

鬼神蔵人の答え

『（１）星のカービィコピーに失敗

（２）泣きつ面にスペインの椅子』

（１）はともかく（２）は死にます

Fクラスから声上がる

『勝てる訳ないって』

『これ以上設備が酷くなるのは嫌だ!!』

『姫路さんがいたら何も入らない!』

おい最後の告白だろ

雄二「まあおちつけ勝算はある、おい康太、姫路のスカートをのぞいてないでこつち来い!」

ああ彼は土屋康太な、一言で言えば変態だ
康太「……………!!」（ブンブン）」

姫路「は、はわっ！」

否定しているが説得力がないぞ

雄二「説明しよう・・・こいつがあのある有名な寡黙なる性識者だ」
ムツリーニ

康太「・・・！！（ブンブン）」

Fクラス男子「おお！！」

またあちこちから声上がる

「こいつがあのもムツリーニだと！？」

「本当か！？はじめて見た！」

「あいつ、畳に顔をつけてたあとを消そうとしてるぞ！？確かにムツリーニだの名に恥じないムツリスケベだ」

クロウド「ろくでもねえなおい」

「コイツの保健体育の実力はAクラス以上のものだ。恐らく誰もかなわない。それから木下秀吉！」

木下秀吉、俺の【全世界の人物の弱みを握っているぞ】ファイルでは性別は男だ

「木下秀吉って、確か演劇部のホープだろう」

「確かAクラスに双子の姉がいるって・・・」

「なら何かしらやってくれそうだ！」

あいつの姉はただの腐女子だぞ

雄二「さらにこのクラスには姫路もいる。説明する必要はないだろう」

姫路「えっ？私ですか！？」

雄二「主戦力だ、期待している」

みんなの視線が姫路にあつまった

「姫路さんって実力は学年次席レベルなんだろう？」

「最強の切り札じゃないか！！」

雄二「当然俺も全力を尽くす」

お前の点数はひどいとおもうんだが？

それじゃあこのクラスにはAクラス並みの実力を持つ奴が2人もいるのか？」

この声を筆頭に・・・

『いける！いけるぞ！』

『かてるんじゃないか！？』

『勝つぞ！！』

ヒートアップした

雄二「それにこの吉井明久もいる」

シーーーーーン・・・・・・・・・・・・・・・・

一瞬にしてその場の空気がとまった

みんな『誰だそれ？』って顔してるな

明久「このタイミングで言う必要あったのそれ！？」

雄二「コイツは学園はじまって以来、最初の『観察処分者』だ！」

明久「無視か！？」

クロウド「明久あきらめろ」

そういつてると姫路が手を上げ

姫路「あの、それってすごいですか？」

クロウド『勉強する気なし、生活態度も悪い、問題児に送られる称号で、ちなみに先生の雑用係だ』

召喚獣は物理干渉ができるがダメージの何割かはフィードバックするからなかなか召喚できない」

雄二「ようするにただの雑魚だ」

明久「ひどいじゃないか雄二！」

あ、今の発言でやっぱだめじゃないかって空気になってきた

クロウド「だが変わりに召喚回数が多いから学年一の操作技術をもっているだろう、これをうまく活用すればシステムデスクも夢じゃ

そして再び熱気が熱を帯びた

クラウド「え？なに？おれ明久より点数低いぞ？」

全員「はああああああああああああ！！！！！！！！？」」

雄一「ゴホン！まあいい……ちなみにこいつの別名……知ってる

みんな何も言わない・知らないらしいな

クラウド「おい雄……」

「それってあの伝説の!？」

いきなり現れ、
急に食わないやつ
のすべての情報を
引き出し公開

「都市伝説じゃなかったのか!？」

「噂じゃ全人類の秘密を握ってるらしいぞ！」

雄二「そうだ．．．さすがにそれは．．．」

雄二「どんなてをつかつたんだ!？」

ハッハッハ！すごいだろう？

雄二「とにかくだ！俺達の力の証明として、まずはDクラスを征

服したい。皆、この境遇は大いに不満だろう！？」

雄二「ならば全員筆を執れ！ 出陣の準備だ！」

雄二「俺たちに必要なのは、卓袱台ではない！ Aクラスのシステ

ムデスクだ！」

Fクラス全男子『うおおー！っ！』
姫路「お、おー……」

戦争は第3者には利益が多い（後書き）

クラウド「はい・・疲れたね!!」

下位戦力の使者は捨て駒に近い（前書き）

クラウド「どーも・・現在、法事のため、田舎から更新中です」

下位戦力の使者は捨て駒に近い

バカテスト 英語 第3問

問 以下の英文を訳しなさい

『 This is the bookshelf that my
grandmother had used regularly .
』

姫路瑞希の答え

『 これは私の祖母が愛用していた本棚です 』

教師のコメント

正解です。きちんと勉強していますね。

土屋康太の答え

『 これは 』

教師のコメント

訳せたのは This だけですか

吉井明久の答え

『 ● ♪ ★ ― ― 』

教師のコメント

出来れば地球上の言語で。

鬼神蔵人の答え

『これは3年前に死んだ祖母が現在使用している本棚です』

教師のコメント

すぐに霊媒師を呼んでください

――――

雄二「明久には、Dクラスへの宣戦布告の為の死者になって貰う。
無事大役を果たせ！」

明久「……下位勢力の宣戦布告の使者って、大抵酷い目に遭うよね？
しかも今字が違わなかった？」

雄二「大丈夫だ、だまされたと思って行ってみろ。俺は友人を騙す
事はしない」

クロウド「明久行くなよ、ほぼ死に掛けて帰れるかわからんから」

雄二「よけいなことってんじゃねえよ！」

明久「やつぱりひどい目にあうんじゃないか！？」

クロウド「とりあえず俺が行くから」

雄二「……まあ進んでいってくれるならそれでもかまわん」

さて行くかいな

Dクラス

ガラッ

クロウド「すいませーん、Fクラスのものなんですけど」

おれがクラスにはいると・・・Dクラス代表の平賀源二が現れた

平賀「なんだい？Fクラスがなんのよう？」

クロウド「FクラスはDクラスに宣戦布告をする・・・時間は今日の

午後からで」

おれが時間を伝え終わると

平賀「そうか・・・じゃあ殺れ!!」

平賀の合図と共にDクラスが襲い掛かってくるが・

クラウド「甘いわ!!」

俺はポケットから狼牙棒ろうがぼう（刃先なしver）を取り出しなぎ払う

平賀「・・・ちよつとまったなんでそんなでつかいものがポケットから・・・」

まあ狼牙棒は3Mあるからな

クラウド「一応物には質量保存というものがある、それを無視して質量を限りなく無限に増やして、まあ・・・取り出せるブラックホールにしたわけだ」

平賀「すごいな、おい!!どこで売ってんだよ!!」

クラウド「売ってないよ、俺が作ったから」

平賀「あんた本当にFクラスか!？」

クラウド「じゃあ帰るわ」

俺は狼牙棒をポケットにしまいFクラスに帰った

Fクラス

クラウド「ただいまー」

雄二「すごいな・・・よく無事で・・・」

クラウド「（暴力の）交渉でな」

明久「・・・なんでだろ・・・今のクラウドの言葉には違和感が」

雄二「明久、それはいいから屋上でミーティングやるぞ?」

で屋上ーーーーー

雄二「それで、クラウド、時間は伝えたのか?」

クラウド「ちゃんと伝えたぞ」

明久「じゃあご飯にしようよ」

雄二「せめてまともな飯を食べるよ」

確かにあいつの食生活はろくなもんじゃねえな

姫路「あれ、吉井君ってお昼食べない人なんですか？」

明久「いや、一応食べてるよ？」

クロウド「水と塩じゃ食べてるとはいわない」

明久「失礼な！ちゃんと砂糖だつて食べてるさ！」

クロウド「砂糖は食べるとは言わない」

姫路「……あの、良かったら私が、お弁当を作つてきましようか？」

明久「え？……ほつ、本当に良いの！？」

姫路「はい。明日の昼でよければ」

クロウド「良かったじゃないか明久。うらやましすぎてつい社会的に殺しちゃいそうだぞ？」

明久「うん！……でも、後半が全然笑えないよ？」

島田「ふーん。瑞希つて、随分優しいんだね。吉井だけに作つてくるなんて」

アこんなやついたな、えーとドイツからの帰国子女の……島田美波だっけ？

姫路「あ、いえ！その、皆さんにも……」

雄二「え？俺達にも？いいのか？」

姫路「はい、嫌じゃなかったら」

すごいな……こんなに作る必要があるのに……いやな顔ひとつしない

クロウド「そろそろ本題に入らないか雄二」

雄二「ん？ああ、そうだな」

秀吉「気になつておつたのじゃが、なぜDクラスなのじゃ？」

ああ・見た目女のえーと木下秀吉か？確か

雄二「もちろん考えがあつての行動だ。まずEクラスを攻めない理由だが、戦うまでもないからだ」

明久「え？なんで？」

雄二「お前の周りにいる面子をよく見てみる」

明久「えーと美少女が二人とバカが二人とムツツリが一人と外道が一人いるね」

その言葉をきっ かけに

雄二「だれが美少女だ!!」

康太「・・・（ポツ）」

明久「ええっ 君たちが美少女に反応するの!？」

クラウド「ひどいな 明久・ おれはムツツリじゃないのに・ ・ 首吊
って死のう」

明久「ちょ!？ 違うからだれか 助けて!!」

数分後

クラウド「取り乱して 悪かった」

雄二「いいか 姫路と鬼神がいる 限りEクラスと戦っても 無駄だ」

明久「姫路さんはわかるけど なんでクラウドも」

クラウド「Eクラスなら 全員の弱点をしってる・ ・ ばらされたくな
い 秘密も」

明久「納得した・・・」

雄二「いいか・ ・ うちのクラスは 最強だ!」

美波「いいわね。 面白そうじゃない!」

秀吉「Aクラスの 連中を引きずり 落としてやるかの」

康太「・・・（グッ）」

瑞希「が、 頑張りますっ」

下位戦力の使者は捨て駒に近い（後書き）

クラウド「次回・・・Dクラス戦」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7736r/>

最強による異次元輪廻

2011年10月18日11時56分発行